

私たちにとって平和とは何か

—キリスト教社会福祉の使命—

NPO法人「東北ヘルプ」事務局長

川上直哉

(日本基督教団仙台北三番丁教会 担任教師)

1. 自己紹介

(1) 母のこと

(2) 支援現場のこと

(3) 「出会う会」のこと

1. 自己紹介

(1)母のこと

(2)支援現場のこと

(3)「出会う会」のこと

1. 自己紹介

(1) 母のこと

1980年代から、精神障害者施設の現場で

(2) 支援現場のこと

(3) 「出会う会」のこと

1. 自己紹介

(1) 母のこと

1980年代から、精神障害者施設の現場で
その後、ケアマネジャーとなり

(2) 支援現場のこと

(3) 「出会う会」のこと

1. 自己紹介

(1) 母のこと

1980年代から、精神障害者施設の現場で
その後、ケアマネジャーとなり
老人施設の施設長の後、引退

(2) 支援現場のこと

(3) 「出会う会」のこと

1. 自己紹介

(1) 母のこと

1980年代から、精神障害者施設の現場で

その後、ケアマネジャーとなり

老人施設の施設長の後、引退 → 管理者としての福祉論

(2) 支援現場のこと

(3) 「出会う会」のこと

1. 自己紹介

(1) 母のこと

1980年代から、精神障害者施設の現場で
その後、ケアマネジャーとなり
老人施設の施設長の後、引退

(2) 支援現場のこと

(3) 「出会う会」のこと

Sendai Christian Alliance Disaster Relief Network

Touhoku HELP

News Letter No.11



index

巻頭言P1
収支計算書P2
UT-OAK震災救援団 冬の寺子屋報告P3
Sola活動報告P5
「ARNE & CARLOS クリスマスボール 翻訳書 出版記念会」に参加してP7
食品放射能計測所報告の これまでと今とこれからP9
福島県キリスト教子どもプロジェクト (通称:ふくしまHOPEプロジェクト)報告P11
巻末言P13
献金者一覧、協賛会員一覧P14

1. 自己紹介

(1) 母のこと

1980年代から、精神障害者施設の現場で
その後、ケアマネジャーとなり
老人施設の施設長の後、引退

(2) 支援現場のこと

(3) 「出会う会」のこと

1. 自己紹介

(1) 母のこと

1980年代から、精神障害者施設の現場で
その後、ケアマネジャーとなり
老人施設の施設長の後、引退

(2) 支援現場のこと

津波災害：

(3) 「出会う会」のこと

1. 自己紹介

(1) 母のこと

1980年代から、精神障害者施設の現場で
その後、ケアマネジャーとなり
老人施設の施設長の後、引退

(2) 支援現場のこと

津波災害：支援から福祉への、最終段階

(3) 「出会う会」のこと

1. 自己紹介

(1) 母のこと

1980年代から、精神障害者施設の現場で
その後、ケアマネジャーとなり
老人施設の施設長の後、引退

(2) 支援現場のこと

津波災害：支援から福祉への、最終段階(復興公営住宅へ)

(3) 「出会う会」のこと

1. 自己紹介

(1) 母のこと

1980年代から、精神障害者施設の現場で
その後、ケアマネジャーとなり
老人施設の施設長の後、引退

(2) 支援現場のこと

津波災害：支援から福祉への、最終段階(復興公営住宅へ)
原子力災害：

(3) 「出会う会」のこと

1. 自己紹介

(1) 母のこと

1980年代から、精神障害者施設の現場で
その後、ケアマネジャーとなり
老人施設の施設長の後、引退

(2) 支援現場のこと

津波災害：支援から福祉への、最終段階(復興公営住宅へ)
原子力災害：矮小化と複雑化のために深刻化

(3) 「出会う会」のこと

1. 自己紹介

(1) 母のこと

1980年代から、精神障害者施設の現場で
その後、ケアマネジャーとなり
老人施設の施設長の後、引退

(2) 支援現場のこと

津波災害：支援から福祉への、最終段階（復興公営住宅へ）
原子力災害：矮小化と複雑化のために深刻化（沈黙させる空気の重圧）

(3) 「出会う会」のこと

1. 自己紹介

(1) 母のこと

1980年代から、精神障害者施設の現場で
その後、ケアマネジャーとなり
老人施設の施設長の後、引退

(2) 支援現場のこと

津波災害：支援から福祉への、最終段階(復興公営住宅へ)

原子力災害：矮小化と複雑化のために深刻化(沈黙させる空気の重圧)

➡教会が復興して、宣教(相談援助業務)が終わる？

(3) 「出会う会」のこと

1. 自己紹介

(1) 母のこと

1980年代から、精神障害者施設の現場で
その後、ケアマネジャーとなり
老人施設の施設長の後、引退

(2) 支援現場のこと

津波災害：支援から福祉への、最終段階（復興公営住宅へ）
原子力災害：矮小化と複雑化のために深刻化（沈黙させる空気の重圧）

(3) 「出会う会」のこと

1. 自己紹介

(1) 母のこと

1980年代から、精神障害者施設の現場で
その後、ケアマネジャーとなり
老人施設の施設長の後、引退

(2) 支援現場のこと

津波災害：支援から福祉への、最終段階（復興公営住宅へ）
原子力災害：矮小化と複雑化のために深刻化（沈黙させる空気の重圧）

(3) 「出会う会」のこと

別紙資料1をご覧ください。

2013年6月4日

県庁記者会のみなさま

仙台キリスト教連合被災支援ネットワーク（東北ヘルプ）
事務局長 川上 直哉
連絡先：090-1373-3652 / naoya2naoya@yahoo.co.jp
Touhokuhelp.com

下記の通り、記者会見を開催したく存じます。ご参加を賜れば幸いです。

記

日時：2013年6月7日（金）14：00から
内容：東京大学災害支援ネットワーク・宮城県臨床心理会・仙台キリスト教連合被災支援ネットワーク各有志による「出会う会（仮称）」（下記参照）開催のお知らせ

以上

支援のこれからを願ひ、支援のこれからを考えるための

「出会う会」（仮称）

のおしらせ

「出会う会」実行委員会
世話人 川上直哉

震災から3年目の日々となっております。

500キロの海岸線は、青草の深い中に津波の跡を生々しく残り、放射能の不安は30万人以上の人々に密やかに浸透しています。

その中で、私たちはできることをし、努めてまいりました。多くの方々のご労に心から感謝しつつ、これからのことを見つめております。

過日、東京大学被災地支援ネットワーク代表と、宮城県臨床心理士会会長・事務局長と、仙台キリスト教連合被災支援ネットワーク（東北ヘルプ）事務局長とで、会合が行われました。そこで、これから必要とされることが話し合われ、一つの企画が生まれました。その企画を、以下のとおり整理し纏めました。お覚え下さり、御参加を賜れば幸いに存じ、記者会見をさせて頂きたく、お知らせをいたします。

会の名称：「出会う会」（仮称）

会の目的：

今後の継続する支援を支えることを目指し、以下の願いを込めた会を開催する。

（1）「2011年の震災による到達点」の確認

95年の震災は様々な意味で「支援」に関わる者の転機となった。今次の震災はどうか。95年の転機との比較を通じ、現在の到達点を確認したい。

（2）「職能ボランティアの出会い」の提供

報酬を制度的に定めた「職業」があり、その職によって得られた能力を用いてボランティアに従事する「職能ボランティア」がある。この視点に立ち、多「職能」者の出会いの場を提供したい。

（3）「支援者を支援するネットワーク」の展望

以上を重ね合わせることで、支援者が互いに支援し合う基盤を創り出せればと期待したい。

最初の会：

6月14日（金）午後6時から、日本基督教団仙台ホサナ教会集会室を会場として行います。会場については、<http://www11.ocn.ne.jp/~hosana/>こちらをご参照ください。

お弁当をご用意いたします（主催者負担です）。人数を把握したく存じますから、御参加の際は前日までにご連絡を頂ければ幸いです。

初回の講師は、臨床心理士で須賀川にて支援活動を展開されている高橋紀子先生です。先生のプロフィールは、以下のリンク先にご覧いただけます。

<http://www.takahashinoriko.com/%E3%83%97%E3%83%AD%E3%83%95%E3%82%A3%E3%83%BC%E3%83%AB/>

高橋先生には、95年を機に臨床心理の世界がどう変わったのか、そして、今どのように変わりつつあるのか、御発題を頂きたくお願いをいたしました。

多くの皆様の御参加をお待ちいたしますと同時に、小さなささやかな会として実りを挙げたく願っております。お覚え下さり、ご都合のつく方はご参加を、また、広く呼びかけなどを、賜れば幸いです。

それでは失礼します。

2013年6月4日

県庁記者会のみなさま

仙台キリスト教連合被災支援ネットワーク（東北ヘルプ）
事務局長 川上 直哉
連絡先：090-1373-3652 / naoya2naoya@yahoo.co.jp
Touhokuhelp.com

下記の通り、記者会見を開催したく存じます。ご参加を賜れば幸いです。

記

日時：2013年6月7日（金）14：00から
内容：東京大学災害支援ネットワーク・宮城県臨床心理会・仙台キリスト教連合被災支援ネットワーク各有志による「出会う会（仮称）」（下記参照）開催のお知らせ

以上

支援のこれからを願ひ、支援のこれからを考えるための

「出会う会」（仮称）

のおしらせ

「出会う会」実行委員会
世話人 川上直哉

震災から3年目の日々となっております。

500キロの海岸線は、青草の深い中に津波の跡を生々しく残り、放射能の不安は30万人以上の人々に密やかに浸透しています。

その中で、私たちはできることをし、努めてまいりました。多くの方々のご労に心から感謝しつつ、これからのことを見つめております。

過日、東京大学被災地支援ネットワーク代表と、宮城県臨床心理士会会長・事務局長と、仙台キリスト教連合被災支援ネットワーク（東北ヘルプ）事務局長とで、会合が行われました。そこで、これから必要とされる話が話し合われ、一つの企画が生まれました。その企画を、以下のとおり整理し纏めました。お覚え下さり、御参加を賜れば幸いに存じ、記者会見をさせて頂きたく、お知らせをいたします。

会の名称：「出会う会」（仮称）

会の目的：

今後の継続する支援を支えることを目指し、以下の願いを込めた会を開催する。

（1）「2011年の震災による到達点」の確認

95年の震災は様々な意味で「支援」に関わる者の転機となった。今次の震災はどうか。95年の転機との比較を通じ、現在の到達点を確認したい。

（2）「職能ボランティアの出会い」の提供

報酬を制度的に定めた「職業」があり、その職によって得られた能力を用いてボランティアに従事する「職能ボランティア」がある。この視点に立ち、多「職能」者の出会いの場を提供したい。

（3）「支援者を支援するネットワーク」の展望

以上を重ね合わせることで、支援者が互いに支援し合う基盤を創り出せればと期待したい。

最初の会：

6月14日（金）午後6時から、日本基督教団仙台ホサナ教会集会室を会場として行います。会場については、<http://www11.ocn.ne.jp/~hosana/>こちらをご参照ください。

お弁当をご用意いたします（主催者負担です）。人数を把握したく存じますから、御参加の際は前日までにご連絡を頂ければ幸いです。

初回の講師は、臨床心理士で須賀川にて支援活動を展開されている高橋紀子先生です。先生のプロフィールは、以下のリンク先にご覧いただけます。

<http://www.takahashinoriko.com/%E3%83%97%E3%83%AD%E3%83%95%E3%82%A3%E3%83%BC%E3%83%AB/>

高橋先生には、95年を機に臨床心理の世界がどう変わったのか、そして、今どのように変わりつつあるのか、御発題を頂きたくお願いをいたしました。

多くの皆様の御参加をお待ちいたしますと同時に、小さなささやかな会として実りを挙げたく願っております。お覚え下さり、ご都合のつく方はご参加を、また、広く呼びかけなどを、賜れば幸いです。

それでは失礼します。

1. 自己紹介

(1) 母のこと

1980年代から、精神障害者施設の現場で
その後、ケアマネジャーとなり
老人施設の施設長の後、引退

(2) 支援現場のこと

津波災害：支援から福祉への、最終段階（復興公営住宅へ）
原子力災害：矮小化と複雑化のために深刻化

(3) 「出会う会」のこと

別紙資料1をご覧ください。

1. 自己紹介

(1) 母のこと

1980年代から、精神障害者施設の現場で
その後、ケアマネジャーとなり
老人施設の施設長の後、引退

(2) 支援現場のこと

津波災害：支援から福祉への、最終段階(復興公営住宅へ)
原子力災害：矮小化と複雑化のために深刻化

(3) 「出会う会」のこと

別紙資料1をご覧ください。 … 「職能ボランティア」

2. 社会福祉の使命

(1) 社会福祉の定義: この社会で「出会った人だけでも、支えよう」

(2) 専門家・職業化の裏面:

「自立支援法」以降、ペーパー・ワークが増え、「ケアマネ的」になっていることが、懸念されている。同機することの大切さは、薄れる。昔は本当に大変だったけれど、ドタバタしていた、その中に出会いがあり、学びがあった。それが現代は、できなくなってきた。

(3) 支援現場の現状:

2. 社会福祉の使命（問題提起）

(1) 社会福祉の定義: この社会で「出会った人だけでも、支えよう」

(2) 専門家・職業化の裏面:

「自立支援法」以降、ペーパー・ワークが増え、「ケアマネ的」になっていることが、懸念されている。同機することの大切さは、薄れる。昔は本当に大変だったけれど、ドタバタしていた、その中に出会いがあり、学びがあった。それが現代は、できなくなってきた。

(3) 支援現場の現状:

2. 社会福祉の使命 →

(1) 社会福祉の定義:

(2) 専門家・職業化の裏面:

「自立支援法」以降、ペーパー・ワークが増え、「ケアマネ的」になっていることが、懸念されている。同機することの大切さは、薄れる。昔は本当に大変だったけれど、ドタバタしていた、その中に出会いがあり、学びがあった。それが現代は、できなくなってきた。

(3) 支援現場の現状:

2. 社会福祉の使命 → 別紙資料2を参照ください

(1) 社会福祉の定義:

(2) 専門家・職業化の裏面:

「自立支援法」以降、ペーパー・ワークが増え、「ケアマネ的」になっていることが、懸念されている。同機することの大切さは、薄れる。昔は本当に大変だったけれど、ドタバタしていた、その中に出会いがあり、学びがあった。それが現代は、できなくなってきた。

(3) 支援現場の現状:

第三回 「出会う会」記録

作成者：川上直哉
作成日：2013年9月5日

日時：9月5日（木）18時～21時

場所：日本基督教団仙台ホサナ教会

参加者：天野宗和（発題者）

真下清（IPDSグループ/JPP株式会社・産業カウンセラー）

谷山洋三（東北大学実践宗教学寄附講座・准教授、僧侶）

郭ヘレン（CRASH Japan care coordinator）

清水亮（東京大学地域支援ネット・一般会員）

似田貝香門（東京大学地域支援ネット・代表幹事）

阿部幹佳（宮城大学看護学部・看護師）

井形英絵（東北ヘルプ・理事）

秋山胖（食品放射能計測所・運営委員）

久保順也（宮城県臨床心理会・危機管理センター長）

大村哲夫（宮城県臨床心理士会・臨床心理士）

小澤義春（みやぎ生協）

小林休（鳴子教会・教師）

中橋恵（Trans World Radio・コーディネーター）

川上直哉（東北ヘルプ・事務局長、記録者）

食事の席での会話から：

- ・95年からの「当分」関わることの意味と、11年からの「当分」の違いは何か。
- ・撤収の仕方を構築しなければならない。
- ・ボランティア論、その中の「パートナー」の概念を考えなければならない。その「チャリティー」との異同を検討することが求められる。
- ・「自立」を考える。中間組織体が資源配分の任を担うが、その際「強い自立者」に偏った配分をしている現実がある。「自立とは支え合いである」と、阪神からの学びのテーマにあった。今改めて、近代的な自立、からの脱却を考えなければならない。

1. 発題（天野）

自己紹介

いわき市在住の大学教師である。今回の会場が教会であることから、自己紹介のきっかけを得たい。教会には、大学浪人であった時代・闘争の時代の中で、通っていた。就職後は、川崎保健所でソーシャルワーカーとして配置された。それは最初の公設施設であった。以来、公務員として、精神保健福祉士の現場に33年立ち続けた。

出したことを印象
出していた。こう
合った。
ている。

作業所までは届く

それでは、自宅に
した現実の中で、
が人を救った、

の支援を、と考え
と実態に即して、

したことの小型の

力は持ち、と

保健師が専任とし
から見えてくる現

が各自の判断での

があった。震災前
積み重ねは、今回

おいても、医療モ
。

・広島県は素晴ら

の中で PTSD が

避難所と中小規模

を知っているこ

った。連日朝9時
も続く。自分とし

避難所を見せる

に友人であった。

関わった人は、死

容するわけには

は、長崎の一般事

れていない。今、

は、コーディネー

は初めて機能す

「ズ」であるはず

とへと呼び名を変

状態の連帯財、共

言う言葉を語つ

る気概を持ち始め

なければ。そう

はそうなった。

とおされなければ

越え方を考えな

やり方を考えて

が、地方で機能

り添う。」こうし

う。その支援のボ

乗り合う出会い

ボランティアが

被災弱者のための
見える。法の条文

。まられたものは、

「ズ」であるはず
とへと呼び名を変
状態の連帯財、共

ことが起こる。

のでは困る、とい

では、ボランティア

していつしか、そ
も出てきた。

アと専門職の協

からだ。

さないで、被災地

でいうクライア

用こうとする人た

というメッセー

力となるのでは

者を支援しよう

時、長崎市職員が

ある。さまざまな

りかもしれない。

それを突破する

ていた」のだが、

出合わなければ、

行く過程で、純粹培

思い出す。今回は、

「サービス」という言

とか、職業者となっ

阪神で反省されたの

懸念されている。

その中に出会いが

者と公務員の距離
じている。

寄り添ってきた牧

者のために祈る、

られる人々が出てき

。

たい。

教師の位置はどこ

むためにはどうし

最後には、宗教に

。従って、身元不

あるのではないか

性は何か。祈り、
超宗派でも祈る。

る。自分のために
てあげることで、そ

そこに対応する。
「屋さん」の方が、

者は、霊的な事柄
点があり、そこに

となっている。専
の職員の疲労もあ
出す機会を得、認
宗教者の役割もあ

い。関わった人
さらに引っ張
ば私は今、大学

第三回 「出会う会」記録

作成者：川上直哉
作成日：2013年9月5日

日時：9月5日（木）18時～21時

場所：日本基督教団仙台ホサナ教会

参加者：天野宗和（発題者）

真下清（IPDSグループ/JPP株式会社・産業カウンセラー）
谷山洋三（東北大学実践宗教学寄附講座・准教授、僧侶）
郭ヘレン（CRASH Japan care coordinator）
清水亮（東京大学地域支援ネット・一般会員）
似田貝香門（東京大学地域支援ネット・代表幹事）
阿部幹佳（宮城大学看護学部・看護師）
井形英絵（東北ヘルプ・理事）
秋山胖（食品放射能計測所・運営委員）
久保順也（宮城県臨床心理会・危機管理センター長）
大村哲夫（宮城県臨床心理士会・臨床心理士）
小澤義春（みやぎ生協）
小林休（鳴子教会・教師）
中橋恵（Trans World Radio・コーディネーター）
川上直哉（東北ヘルプ・事務局長、記録者）

食事の席での会話から：

- ・95年からの「当分」関わることの意味と、11年からの「当分」の違いは何か。
- ・撤収の仕方を構築しなければならない。
- ・ボランティア論、その中の「パートナー」の概念を考えなければならない。その「チャリティー」との異同を検討することが求められる。
- ・「自立」を考える。中間組織体が資源配分の任を担うが、その際「強い自立者」に偏った配分をしている現実がある。「自立とは支え合いである」と、阪神からの学びのテーマにあった。今改めて、近代的な自立、からの脱却を考えなければならない。

1. 発題（天野）

自己紹介

いわき市在住の大学教師である。今回の会場が教会であることから、自己紹介のきっかけを得たい。教会には、大学浪人であった時代・闘争の時代の中で、通っていた。就職後は、川崎保健所でソーシャルワーカーとして配置された。それは最初の公設施設であった。以来、公務員として、精神保健福祉士の現場に33年立ち続けた。

出したことを印象
出していた。こう
合った。
ている。

営業所までは届く

それでは、自宅に
した現実の中で、
が人を救った、

の支援を、と考え
と実態に即して、

したことの小型の

力は持ち、と

保健師が専任とし
から見えてくる現

が各自の判断での

があった。震災前
積み重ねは、今回

おいても、医療モ
。

・広島県は素晴ら

の中で PTSD が

避難所と中小規模

を知っているこ

った。連日朝9時
も続く。自分とし

避難所を見せる

に友人であった。

関わった人は、死

容するわけには

は、長崎の一般事

れていない。今、

は、コーディネー

は初めて機能す

「インズ」であるはず

とへと呼び名を変

状態の連帯財、共

言う言葉を語つ

る気概を持ち始め

る必要がある。そ

うれば、そう

はそうだった。

とおさなければ

越え方を考えな

やり方を考えて

が、地方で機能

り添う。」こうし

う。その支援のボ

乗り合う出合い

ボランティアが

被災弱者のための
見える。法の条文

。まられたものは、

「インズ」であるはず

とへと呼び名を変

状態の連帯財、共

ることが起こる。

りでは困る、とい

では、ボランティア

していつしか、そ
も出てきた。

アと専門職の協

からだ。

さないで、被災地

でいうクライア

用こうとする人た

というメッセー

力となるのでは

者を支援しよう

時、長崎市職員が

る。さまざまな

りかもしれない。

それを突破する

ていた」のだが、

出合わなければ、

行く過程で、純粹培

思い出す。今回は、

「オービス」という言

とか、職業者となっ

阪神で反省されたの

懸念されている。

その中に出会いが

者と公務員の距離

じている。

寄り添ってきた牧

者のために祈る、

られる人々が出てき

。

たい。

教師の位置はどこ

むためにはどうし

最後には、宗教に

。従って、身元不

あるのではないか

性は何か。祈り、
超宗派でも祈る。

る。自分のために
てあげることで、そ

そこに対応する。
「屋さん」の方が、

者は、霊的な事柄
点があり、そこに

となっている。専
の職員の疲労もあ

出す機会を得、認
宗教者の役割もあ

い。関わった人
さらに引っ張
ば私は今、大学

2. 社会福祉の使命

(1) 社会福祉の定義:

(2) 専門家・職業化の裏面:

「自立支援法」以降、ペーパー・ワークが増え、「ケアマネ的」になっていることが、懸念されている。同機することの大切さは、薄れる。昔は本当に大変だったけれど、ドタバタしていた、その中に出会いがあり、学びがあった。それが現代は、できなくなってきた。

(3) 支援現場の現状:

2. 社会福祉の使命

(1) 社会福祉の定義：この社会で「出会った人だけでも、支えよう」

(2) 専門家・職業化の裏面：

「自立支援法」以降、ペーパー・ワークが増え、「ケアマネ的」になっていることが、懸念されている。同機することの大切さは、薄れる。昔は本当に大変だったけれど、ドタバタしていた、その中に出会いがあり、学びがあった。それが現代は、できなくなってきた。

(3) 支援現場の現状：

第三回 「出会う会」記録

作成者：川上直哉
作成日：2013年9月5日

日時：9月5日（木）18時～21時
場所：日本基督教団仙台ホサナ教会
参加者：天野宗和（発題者）

真下清（IPDSグループ/JPP株式会社・産業カウンセラー）
谷山洋三（東北大学実践宗教学寄附講座・准教授、僧侶）
郭ヘレン（CRASH Japan care coordinator）
清水亮（東京大学地域支援ネット・一般会員）
似田貝香門（東京大学地域支援ネット・代表幹事）
阿部幹佳（宮城大学看護学部・看護師）
井形英絵（東北ヘルプ・理事）
秋山胖（食品放射能計測所・運営委員）
久保順也（宮城県臨床心理会・危機管理センター長）
大村哲夫（宮城県臨床心理士会・臨床心理士）
小澤義春（みやぎ生協）
小林休（鳴子教会・教師）
中橋恵（Trans World Radio・コーディネーター）
川上直哉（東北ヘルプ・事務局長、記録者）

食事の席での会話から：

- ・95年からの「当分」関わることの意味と、11年からの「当分」の違いは何か。
- ・撤収の仕方を構築しなければならない。
- ・ボランティア論、その中の「パートナー」の概念を考えなければならない。その「チャリティー」との異同を検討することが求められる。
- ・「自立」を考える。中間組織体が資源配分の任を担うが、その際「強い自立者」に偏った配分をしている現実がある。「自立とは支え合いである」と、阪神からの学びのテーマにあった。今改めて、近代的な自立、からの脱却を考えなければならない。

1. 発題（天野）

自己紹介

いわき市在住の大学教師である。今回の会場が教会であることから、自己紹介のきっかけを得たい。教会には、大学浪人であった時代・闘争の時代の中で、通っていた。就職後は、川崎保健所でソーシャルワーカーとして配置された。それは最初の公設施設であった。以来、公務員として、精神保健福祉士の現場に33年立ち続けた。

出したことを印象
出していた。こう
合った。
ている。

営業所までは届く

それでは、自宅に
した現実の中で、
が人を救った、

の支援を、と考え
と実態に即して、

したことの小型の

力は持ち、と

保健師が専任とし
から見えてくる現

が各自の判断での

があった。震災前
積み重ねは、今回

おいても、医療モ
。

・広島県は素晴ら

の中で PTSD が

避難所と中小規模

を知っているこ

った。連日朝9時
も続く。自分とし

避難所を見せる

に友人であった。

関わった人は、死

容するわけには

は、長崎の一般事

れていない。今、

は、コーディネー

は初めて機能す

「インズ」であるはず

とへと呼び名を変

状態の連帯財、共

言う言葉を語つ

る気概を持ち始め

なければ。そう

はそうなった。

とおされなければ

越え方を考えな

やり方を考えて

が、地方で機能

り添う。」こうし

う。その支援のボ

乗り合う出合い

ボランティアが

被災弱者のための
見える。法の条文

からだ。

。

られたものは、

さでいうクライア

用こうとする人た

というメッセー

力となるのでは

。

状態の連帯財、共

。

ことが起こる。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

していつしか、そ
も出てきた。

アと専門職の協

からだ。

。

ささないで、被災地

さでいうクライア

用こうとする人た

というメッセー

力となるのでは

。

状態の連帯財、共

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

行く過程で、純粹培

思い出す。今回は、

「オービス」という言

とか、職業者となっ

阪神で反省されたの

懸念されている。

その中に出会いが

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。従って、身元不

あるのではないか

性は何か。祈り、
超宗派でも祈る。

る。自分のために
てあげることで、そ

そこに対応する。
「屋さん」の方が、

者は、霊的な事柄
点があり、そこに

。

。

。

。

。

。

。

。

い。関わった人
さらに引っ張
ば私は今、大学

第三回 「出会う会」記録

作成者：川上直哉
作成日：2013年9月5日

日時：9月5日（木）18時～21時

場所：日本基督教団仙台ホサナ教会

参加者：天野宗和（発題者）

真下清（IPDSグループ/JPP株式会社・産業カウンセラー）

谷山洋三（東北大学実践宗教学寄附講座・准教授、僧侶）

郭ヘレン（CRASH Japan care coordinator）

清水亮（東京大学地域支援ネット・一般会員）

似田貝香門（東京大学地域支援ネット・代表幹事）

阿部幹住（宮城大学看護学部・看護師）

井形英絵（東北ヘルプ・理事）

秋山胖（食品放射能計測所・運営委員）

久保原也（宮城県臨床心理会・危機管理センター長）

大村哲夫（宮城県臨床心理士会・臨床心理士）

小澤義春（みやぎ生協）

小林休（鳴子教会・牧師）

中橋恵（Trans World Radio・コーディネーター）

川上直哉（東北ヘルプ・事務局長、記録者）

食事の席での会話から：

- ・95年からの「当分」関わることの意味と、11年からの「当分」の違いは何か。
- ・撤収の仕方を構築しなければならない。
- ・ボランティア論、その中の「パートナー」の概念を考えなければならない。その「チャリティー」との異同を検討することが求められる。
- ・「自立」を考える。中間組織体が資源配分の任を担うが、その際「強い自立者」に偏った配分をしている現実がある。「自立とは支え合いである」と、阪神からの学びのテーマにあった。今改めて、近代的な自立、からの脱却を考えなければならない。

1. 発題（天野）

自己紹介

いわき市在住の大学教師である。今回の会場が教会であることから、自己紹介のきっかけを得たい。教会には、大学浪人であった時代・闘争の時代の中で、通っていた。就職後は、川崎保健所でソーシャルワーカーとして配置された。それは最初の公設施設であった。以来、公務員として、精神保健福祉士の現場に33年立ち続けた。

別紙資料2 6頁 をご覧ください

第三回 「出会う会」記録

作成者：川上直哉
作成日：2013年9月5日

日時：9月5日（木）18時～21時

場所：日本基督教団仙台ホサナ教会

参加者：天野宗和（発題者）

真下清（IPDS グループ/JPP 株式会社・産業カウンセラー）

谷山洋三（東北大学実践宗教学寄附講座・准教授、僧侶）

郭ヘレン（CRASH Japan care coordinator）

清水亮（東京大学地域支援ネット・一般会員）

似田貝香門（東京大学地域支援ネット・代表幹事）

阿部幹佳（宮城大学看護学部・看護師）

井形英絵（東北ヘルプ・理事）

秋山胖（食品放射能計測所・運営委員）

久保順也（宮城県臨床心理会・危機管理センター長）

大村哲夫（宮城県臨床心理士会・臨床心理士）

小澤義春（みやぎ生協）

小林休（鳴子教会・牧師）

中橋恵（Trans World Radio・コーディネーター）

川上直哉（東北ヘルプ・事務局長、記録者）

食事の席での会話から：

- ・95年からの「当分」関わることの意味と、11年からの「当分」の違いは何か。
- ・撤収の仕方を構築しなければならない。
- ・ボランティア論、その中の「パートナー」の概念を考えなければならない。その「チャリティ」との異同を検討することが求められる。
- ・「自立」を考える。中間組織体が資源配分の任を担うが、その際「強い自立者」に偏った配分をしている現実がある。「自立とは支え合いである」と、阪神からの学びのテーマにあった。今改めて、近代的な自立、からの脱却を考えなければならない。

1. 発題（天野）

自己紹介

いわき市在住の大学教師である。今回の会場が教会であることから、自己紹介のきっかけを得たい。教会には、大学浪人であった時代・闘争の時代の中で、通っていた。就職後は、川崎保健所でソーシャルワーカーとして配置された。それは最初の公設施設であった。以来、公務員として、精神保健福祉士の現場に33年立ち続けた。

出したことを印
出していた。こ
合った。
ている。

就業所までは届

それでは、自宅
した現実の中で
人が救った。

の支援を、と考
と実態に即して

したことの小型

勢は力を持ち、

保健師が専任と
から見えてくる

が各自の判断で

があった。震災
積み重ねは、今

おいても、医療
。

・広島県は素晴

の中で PTSD

避難所と中小規

秋山：

かつて心理学を学んだ者は、他職能を見ながら学んだ。現在、心理学が職業化して行く過程で、純粋培養化し視野が狭くなってゆくという問題がある。

似田貝：

阪神震災への評判として、「福祉系の顔があまり見えなかった」と言われたことを思い出す。今回は、社会事業のボランティアが前面に出てきた。「福祉」という言葉の前に、「ソーシャルサービス」という言葉が使われていた。「セトルメント」等も、「社会事業」と言われた。それはいつの間にか、職業者となって、福祉となった。そうして、枠の中に納まった。「with から for へ」進み、それが阪神で反省されたのであった。

天野：

「自立支援法」以降、ペーパー・ワークが増え、「ケアマネ的」になっていることが、懸念されている。同機することの大切さは、薄れる。昔は本当に大変だったけれど、ドタバタしていた、その中に出会いがあり、学びがあった。それが現代は、できなくなってきた。

秋山：

肩書と職業が一致してしまう現実が展開している。

宗教と支援

谷山：

遺体安置所を回った経験から語ってみたい。想像以上に、宗教者が感謝された。宗教者と公務員の距離感「あるべき」であるが、管理者のために、関わりを増さねばならないのではと感じている。

井形：

今回、教会が避難所の代替施設となった。そうした中で、阪神震災以来社会的弱者と寄り添ってきた牧師から、「弔いをしてほしい」と言われた。「心の相談室」はそうして生まれた。身元不明者のために祈る、ということが生まれた。

今回は、警察が、身元不明者を焼くこと決定を下し、遺族の特定されないまま火葬される人々が出てきた。その身元不明者の焼却の現場を見た。儀式のない火葬、その差別の重さを感じた。

阪神でも弔いは行われた。今回は、大量の人々のために行った。それを伝えていきたい。

JMAT と心のケアを繋いだ話が出された。そこに宗教者は接続しないだろうか。宗教者の位置はどこにあるだろうか。宗教性を以て仕えることを目指しているのだけれど、いっしょに進むためにはどうしたらよいか。

天野：

自分が教えたソーシャルワーカーの1割は、クリスチャンに影響されていた。最後には、宗教に

。従って、身元不

い。関わった人
たちに引っ張
ば私は今、大学

あるのではないか

性は何か。祈り、
超宗派でも祈る。

る。自分のために
てあげること、そ

そこに対応する。
「屋さん」の方が、

者は、霊的な事柄
点があり、そこに

となっている。専
の職員の疲労もあ
出す機会を得、認
宗教者の役割もあ

秋山：

かつて心理学を学んだ者は、他職能を見ながら学んだ。現在、心理学が職業化して行く過程で、純粋培養化し視野が狭くなってゆくという問題がある。

似田貝：

阪神震災への評判として、「福祉系の顔があまり見えなかった」と言われたことを思い出す。今回は、社会事業のボランティアが前面に出てきた。「福祉」という言葉の前に、「ソーシャルサービス」という言葉が使われていた。「セツルメント」等も、「社会事業」と言われた。それはいつの間にか、職業者となって、福祉となった。そうして、枠の中に納まった。「with から for へ」進み、それが阪神で反省されたのであった。

天野：

「自立支援法」以降、ペーパー・ワークが増え、「ケアマネ的」になっていることが、懸念されている。同機することの大切さは、薄れる。昔は本当に大変だったけれど、ドタバタしていた、その中に出会いがあり、学びがあった。それが現代は、できなくなってきた。

秋山：

肩書と職業が一致してしまう現実が展開している。

宗教と支援

谷山：

遺体安置所を回った経験から語ってみたい。想像以上に、宗教者が感謝された。宗教者と公務員の距離感「あるべき」であるが、管理者のために、関わりを増さねばならないのではと感じている。

井形：

今回、教会が避難所の代替施設となった。そうした中で、阪神震災以来社会的弱者と寄り添ってきた牧師から、「弔いをしてほしい」と言われた。「心の相談室」はそうして生まれた。身元不明者のために祈る、ということが生まれた。

今回は、警察が、身元不明者を焼くこと決定を下し、遺族の特定されないまま火葬される人々が出てきた。その身元不明者の焼却の現場を見た。儀式のない火葬、その差別の重さを感じた。

阪神でも弔いは行われた。今回は、大量の人々のために行った。それを伝えていきたい。

JMAT と心のケアを繋いだ話が出された。そこに宗教者は接続しないだろうか。宗教者の位置はどこにあるだろうか。宗教性を以て仕えることを目指しているのだけれど、いっしょに進むためにはどうしたらよいか。

天野：

自分が教育てたソーシャルワーカーの 1 割は、クリスチャンに影響されていた。最後には、宗教に

秋山：

かつて心理学を学んだ者は、他職能を見ながら学んだ。現在、心理学が職業化して行く過程で、純粋培養化し視野が狭くなってゆくという問題がある。

似田貝：

阪神震災への評判として、「福祉系の顔があまり見えなかった」と言われたことを思い出す。今回は、社会事業のボランティアが前面に出てきた。「福祉」という言葉の前に、「ソーシャルサービス」という言葉が使われていた。「セツルメント」等も、「社会事業」と言われた。それはいつの間にか、職業者となって、福祉となった。そうして、枠の中に納まった。「with から for へ」進み、それが阪神で反省されたのであった。

天野：

「自立支援法」以降、ペーパー・ワークが増え、「ケアマネ的」になっていることが、懸念されている。同機することの大切さは、薄れる。昔は本当に大変だったけれど、ドタバタしていた、その中に出会いがあり、学びがあった。それが現代は、できなくなってきた。

秋山：

肩書と職業が一致してしまう現実が展開している。

宗教と支援

谷山：

遺体安置所を回った経験から語ってみたい。想像以上に、宗教者が感謝された。宗教者と公務員の距離感「あるべき」であるが、管理者のために、関わりを増さねばならないのではと感じている。

井形：

今回、教会が避難所の代替施設となった。そうした中で、阪神震災以来社会的弱者と寄り添ってきた牧師から、「弔いをしてほしい」と言われた。「心の相談室」はそうして生まれた。身元不明者のために祈る、ということが生まれた。

今回は、警察が、身元不明者を焼くこと決定を下し、遺族の特定されないまま火葬される人々が出てきた。その身元不明者の焼却の現場を見た。儀式のない火葬、その差別の重さを感じた。

阪神でも弔いは行われた。今回は、大量の人々のために行った。それを伝えていきたい。

JMAT と心のケアを繋いだ話が出された。そこに宗教者は接続しないだろうか。宗教者の位置はどこにあるだろうか。宗教性を以て仕えることを目指しているのだけれど、いっしょに進むためにはどうしたらよいか。

天野：

自分が教育てたソーシャルワーカーの 1 割は、クリスチャンに影響されていた。最後には、宗教に

2. 社会福祉の使命

(1) 社会福祉の定義: この社会で「出会った人だけでも、支えよう」

(2) 専門家・職業化の裏面:

「自立支援法」以降、ペーパー・ワークが増え、「ケアマネ的」になっていることが、懸念されている。同機することの大切さは、薄れる。昔は本当に大変だったけれど、ドタバタしていた、その中に出会いがあり、学びがあった。それが現代は、できなくなってきた。

(3) 支援現場の現状:

2. 社会福祉の使命

(1) 社会福祉の定義: この社会で「出会った人だけでも、支えよう」

(2) 専門家・職業化の裏面:

「自立支援法」以降、ペーパー・ワークが増え、「ケアマネ的」になっていることが、懸念されている。同機することの大切さは、薄れる。昔は本当に大変だったけれど、ドタバタしていた、その中に出会いがあり、学びがあった。それが現代は、できなくなってきた。

(3) 支援現場の現状:

2. 社会福祉の使命

(1) 社会福祉の定義: この社会で「出会った人だけでも、支えよう」

(2) 専門家・職業化の裏面:

「自立支援法」以降、ペーパー・ワークが増え、「ケアマネ的」になっていることが、懸念されている。同機することの大切さは、薄れる。昔は本当に大変だったけれど、ドタバタしていた、その中に出会いがあり、学びがあった。それが現代は、できなくなってきた。

(3) 支援現場の現状: 燃え尽き・困窮し・難民化する支援者

2. 社会福祉の使命

(1) 社会福祉の定義: この社会で「出会った人だけでも、支えよう」

(2) 専門家・職業化の裏面:

「自立支援法」以降、ペーパー・ワークが増え、「ケアマネ的」になっていることが、懸念されている。同機することの大切さは、薄れる。昔は本当に大変だったけれど、ドタバタしていた、その中に出会いがあり、学びがあった。それが現代は、できなくなってきた。

(3) 支援現場の現状: 燃え尽き・困窮し・難民化する支援者

「持続可能性」と「使命の維持」の二律背反

3. キリスト教と平和

(1)「Just Peace?」: アジア・アフリカからの異議

(2)「シャローム」の原義

(3)熊本震災と津波被災地の現場で: キリスト教的支援者の職能

3. キリスト教と平和

(1)「Just Peace?」: アジア・アフリカからの異議

別紙資料3 を参照ください。

(2)「シャローム」の原義

(3)熊本震災と津波被災地の現場で: キリスト教的支援者の職能

世界教会協議会第十回釜山総会 報告 前篇

2013年10月30日から11月8日まで、韓国釜山において、世界教会協議会(WCC)第十回総会が開催された。世界中の教会から825名の代表者が出席し、その他参加者は3500名を数えた。この「その他参加者」として、東北震災への支援の感謝と「福島」の放射能禍の惨状を世界に発信するべく、東北ヘルプは、牧師・画家・通訳者・ムスリム指導者等からなる8名のチームを編成し、参加した。以下、前後篇に分けて、その報告を記す。

(2013年12月18日 東北ヘルプ事務局長 川上直哉 記)

ることになりました。し
題を取り扱うに及ばない
しまったのです。この危
って下さった方々の心に
で、WCC本会議で「福
見が出されました。それ
れた国際会議に結実し(12
て、今回のWCCへ進んだ

英語のコーチをしてくれた南
ただ感謝をしています。

0日間の審議を終えました。結
するに至らず、総会では中央委
ることを決めました。つまり、
採択の可否をめぐる議論が始
まだ続くのです。

本当に大きな学びを得ることが

くださるニュージーランドか
0年前に勝利し、この20年間
から解放された国(Nuclear-
)の報告をいただきました。
前までは、「英国について行く」
国であったそうです。しかし、
の活動とを繋ぎ合わせる努力
と、というのです。そしてそれ
大きな励みとなりました。

ンドの報告は、南太平洋が核の
、私たちに思い出させました。
40年前から南太平洋で起こ
きまない。そのことを、私たち
やってくる多くの方々の語
たのでした。

福島」の問題が霞むほど、数
ている。そのことも、はっき

牧師が発題した。題詞はD・マックイントッシュ氏、



の参加者がおりました。



原発正門前で、「福島」を比較対象と
して「核の安全性」をアピールする
機を前に、「福島」の事故の大部分は
「人的要因」によるものだったと、川
上のスピーチ。通訳の蓮丸龍雄と共に、
帰路、東京新聞記者の取材を受ける。

Jericho Walk! with Hibakusha

near and Pacific Christian Solidarity for a World without Nukes
1970-1975
1976-1980
1981-1985
1986-1990
1991-1995
1996-2000
2001-2005
2006-2010
2011-2015
2016-2020
2021-2025
2026-2030
2031-2035
2036-2040
2041-2045
2046-2050
2051-2055
2056-2060
2061-2065
2066-2070
2071-2075
2076-2080
2081-2085
2086-2090
2091-2095
2096-2100

Memoria and Evening Gae hana for Prayer
30th Oct. 8:30-10:00 / 20th Nov. 8:30-10:00
All Welcome
Memoria and Evening Gae hana for Prayer
30th Oct. 8:30-10:00 / 20th Nov. 8:30-10:00
All Welcome
Memoria and Evening Gae hana for Prayer
30th Oct. 8:30-10:00 / 20th Nov. 8:30-10:00
All Welcome

報告 後篇



に取り組むことで、参画するこ
を得たことです。

ながら、上記の三点をご説明い
ながら、上記の三点をご説明い

間報道を日本語訳した資料集を
やすくしてみたい、と思います。

ていたのは、「エキメニカル・
ラプログラムでした。その様子
民日報の記事に詳しく説明され
平和(Just Peace)」を主題と
ヴァーセッションに参加しました。

ないでしょうか。私たち
さうべきである。しかし
のみ、使うべきである。
和」ということを語る。
か。それは、「不正義に
と平和を見つめ、それを
よって、成し遂げられ
なのです。

ル・カンヴァーセッション
のとなりました。とり
まされている私たちに
なものとなりました。改

後、手をつないで賛美をし

界の博覧会のよう
た。そしてそこに
教会の一致の問題

議論は困難の中を
参照)。

の一步」と位置付



ブースでもに送られた仲間との集合写真

した。ジャマイカでの失
ち東北ヘルプも、世界の
努力し続けました。結果、
台湾・ニュージーランド
・フィリピンの理解と
一活動を行うことができ

。日本基督教団からの代
最初のプロアからの発言
。その speak out を皮
肉に、「福島」が語られま
の先生方に、お礼の言葉
ブースにも、多くの人
が立った。渡辺先生の絵画
が、私たちのブースで、

一つの「嘆願書」が完成
ください。世界各国が



WCC 総会では、毎朝礼拝に始まり、毎夕礼拝で締められました。そこには多様な礼拝のコラボレーションがありました。



この日、舞台左には若者たちが、右には正教の聖職者が並び、共に礼拝を形作りました。舞台の左側には、楽団と合唱隊が配置されていました。

2013年10月30日水曜日から、WCC釜山大会は、
開催されました。大会は、朝夕の礼拝によって枠づけら
れていました。数多くの色とりどりの礼拝が、共に守られ
る。その様子は、参加するすべての人に、平和と一致
を思い出させる光景となります。

東北ヘルプは、ニュージーランド・クライストチャー
チの諸教会と共に、「災害時における教会の役割」を議論

する場として、ブースを設営することとなりました。東北
ヘルプの井形理事、李職員、そして私と共に、渡辺総
一面伯ご夫妻とが、ニュージーランドのジル・ホーキ
さんと、開会初日から、ブースを設置しました。私たち
のブースは角地で、釜山市のツアーデスクの目の前、人
が程よく通り、人はゆっくりとそこに留まれる、格好の
場所でした。そこで私たちは、「福島」の映像を中心に資
料を示しつつ、渡辺先生の絵画が常設され、大きな存在

3. キリスト教と平和

(1)「Just Peace?」: アジア・アフリカからの異議

別紙資料3 を参照ください。

(2)「シャローム」の原義

(3)熊本震災と津波被災地の現場で: キリスト教的支援者の職能

3. キリスト教と平和

(1)「Just Peace?」: アジア・アフリカからの異議

別紙資料3 を参照ください。

...

(2)「シャローム」の原義

(3)熊本震災と津波被災地の現場で: キリスト教的支援者の職能

3. キリスト教と平和

(1)「Just Peace?」: アジア・アフリカからの異議

別紙資料3 を参照ください。

・・・新教＋正教＝

(2)「シャローム」の原義

(3)熊本震災と津波被災地の現場で: キリスト教的支援者の職能

3. キリスト教と平和

(1)「Just Peace?」: アジア・アフリカからの異議

別紙資料3 を参照ください。

・・・新教＋正教＝5億人の教会会議

(2)「シャローム」の原義

(3)熊本震災と津波被災地の現場で: キリスト教的支援者の職能

3. キリスト教と平和

(1)「Just Peace?」: アジア・アフリカからの異議

別紙資料3 を参照ください。

・・・新教＋正教＝5億人の教会会議→長年の議論: 平和と正義の関係は？

(2)「シャローム」の原義

(3) 熊本震災と津波被災地の現場で: キリスト教的支援者の職能

3. キリスト教と平和

(1)「Just Peace?」: アジア・アフリカからの異議

別紙資料3 を参照ください。

・・・新教＋正教＝5億人の教会会議→長年の議論: 平和と正義の関係は？

(2)「シャローム」の原義

(3) 熊本震災と津波被災地の現場で: キリスト教的支援者の職能

3. キリスト教と平和

(1)「Just Peace?」: アジア・アフリカからの異議

別紙資料3 を参照ください。

・・・新教＋正教＝5億人の教会会議→長年の議論: 平和と正義の関係は？

(2)「シャローム」の原義

古代ユダヤの言葉: 債権者と負債者が、公証人の前で、和解を宣言される語

(3) 熊本震災と津波被災地の現場で: キリスト教的支援者の職能

3. キリスト教と平和

(1)「Just Peace?」: アジア・アフリカからの異議

別紙資料3 を参照ください。

・・・新教＋正教＝5億人の教会会議→長年の議論: 平和と正義の関係は？

(2)「シャローム」の原義

古代ユダヤの言葉: 債権者と負債者が、公証人の前で、和解を宣言される語

・・・キリスト教的平和(シャローム)＝愛と赦しの宣言

(3) 熊本震災と津波被災地の現場で: キリスト教的支援者の職能

3. キリスト教と平和

(1)「Just Peace?」: アジア・アフリカからの異議

別紙資料3 を参照ください。

・・・新教＋正教＝5億人の教会会議→長年の議論: 平和と正義の関係は？

(2)「シャローム」の原義

古代ユダヤの言葉: 債権者と負債者が、公証人の前で、和解を宣言される語

・・・キリスト教的平和＝愛と赦しの宣言

(3) 熊本震災と津波被災地の現場で: キリスト教的支援者の職能

熊本震災と東日本大震災

2016年4月18日(月)

OM宣教師2名と共に、宮城県を出発。

千葉市内のキリスト聖協団本部で荷物搬入。

日本基督教団南山教会に宿泊

2016年4月19日(火)

四国と九州の間にある伊方原発わきを通り、九州へ。

深夜、キリスト聖協団熊本教会へ到着。



熊本震災と東日本大震災

2016年4月20日(水)



熊本震災と東日本大震災

2016年4月20日(水)

浄土真宗大谷派光照寺へ物資を搬入



熊本震災と東日本大震災

2016年4月20日(水)

浄土真宗大谷派光照寺へ物資を搬入



熊本震災と東日本大震災

2016年4月20日(水)

浄土真宗大谷派光照寺へ物資を搬入



熊本震災と東日本大震災

2016年4月20日(水)

浄土真宗大谷派光照寺へ物資を搬入

豊川保育園(浄土真宗大谷派教永寺付属施設)へ
物資を搬入



熊本震災と東日本大震災

2016年4月20日(水)

浄土真宗大谷派光照寺へ物資を搬入

豊川保育園(浄土真宗大谷派教永寺付属施設)へ
物資を搬入

木山キリスト教会へ物資を搬入



熊本震災と東日本大震災

2016年4月20日(水)

浄土真宗大谷派光照寺へ物資を搬入

豊川保育園(浄土真宗大谷派教永寺付属施設)へ
物資を搬入

木山キリスト教会へ物資を搬入

益城町中心部へ



熊本震災と東日本大震災

2016年4月20日(水)

浄土真宗大谷派光照寺へ物資を搬入

豊川保育園(浄土真宗大谷派教永寺付属施設)へ
物資を搬入

木山キリスト教会へ物資を搬入

益城町中心部へ



熊本震災と東日本大震災

2016年4月20日(水)

浄土真宗大谷派光照寺へ物資を搬入

豊川保育園(浄土真宗大谷派教永寺付属施設)へ
物資を搬入

木山キリスト教会へ物資を搬入

益城町中心部へ



熊本震災と東日本大震災

2016年4月20日(水)

浄土真宗大谷派光照寺へ物資を搬入

豊川保育園(浄土真宗大谷派教永寺付属施設)へ
物資を搬入

木山キリスト教会へ物資を搬入

益城町中心部へ



熊本震災と東日本大震災

2016年4月20日(水)

浄土真宗大谷派光照寺へ物資を搬入

豊川保育園(浄土真宗大谷派教永寺付属施設)へ
物資を搬入

木山キリスト教会へ物資を搬入

益城町中心部へ



熊本震災と東日本大震災

2016年4月20日(水)

浄土真宗大谷派光照寺へ物資を搬入

豊川保育園(浄土真宗大谷派教永寺付属施設)へ
物資を搬入

木山キリスト教会へ物資を搬入

益城町中心部へ



熊本震災と東日本大震災

2016年4月20日(水)

浄土真宗大谷派光照寺へ物資を搬入

豊川保育園(浄土真宗大谷派教永寺付属施設)へ
物資を搬入

木山キリスト教会へ物資を搬入

益城町中心部へ



熊本震災と東日本大震災

2016年4月20日(水)

浄土真宗大谷派光照寺へ物資を搬入

豊川保育園(浄土真宗大谷派教永寺付属施設)へ
物資を搬入

木山キリスト教会へ物資を搬入

益城町中心部へ

熊本東聖書キリスト教会へ



熊本震災と東日本大震災

2016年4月20日(水)

浄土真宗大谷派光照寺へ物資を搬入

豊川保育園(浄土真宗大谷派教永寺付属施設)へ
物資を搬入

木山キリスト教会へ物資を搬入

益城町中心部へ

熊本東聖書キリスト教会へ



熊本震災と東日本大震災

2016年4月20日(水)

浄土真宗大谷派光照寺へ物資を搬入

豊川保育園(浄土真宗大谷派教永寺付属施設)へ
物資を搬入

木山キリスト教会へ物資を搬入

益城町中心部へ

熊本東聖書キリスト教会へ



熊本震災と東日本大震災

2016年4月20日(水)

浄土真宗大谷派光照寺へ物資を搬入

豊川保育園(浄土真宗大谷派教永寺付属施設)へ
物資を搬入

木山キリスト教会へ物資を搬入

益城町中心部へ

熊本東聖書キリスト教会へ



熊本震災と東日本大震災

2016年4月20日(水)

浄土真宗大谷派光照寺へ物資を搬入

豊川保育園(浄土真宗大谷派教永寺付属施設)へ
物資を搬入

木山キリスト教会へ物資を搬入

益城町中心部へ

熊本東聖書キリスト教会へ



熊本震災と東日本大震災

2016年4月20日(水)

浄土真宗大谷派光照寺へ物資を搬入

豊川保育園(浄土真宗大谷派教永寺付属施設)へ
物資を搬入

木山キリスト教会へ物資を搬入

益城町中心部へ

熊本東聖書キリスト教会へ

キリスト聖協団熊本教会で、JCIMの皆さんと
「支援について」「今後について」懇談



熊本震災と東日本大震災

2016年4月20日(水)

浄土真宗大谷派光照寺へ物資を搬入

豊川保育園(浄土真宗大谷派教永寺付属施設)へ
物資を搬入

木山キリスト教会へ物資を搬入

益城町中心部へ

熊本東聖書キリスト教会へ

キリスト聖協団隈本教会で、JCIMの皆さんと
「支援について」「今後について」懇談



熊本震災と東日本大震災

2016年4月21日(木)

ルーテル大江教会でチャプレン会議



熊本震災と東日本大震災

2016年4月21日(木)

ルーテル大江教会でチャプレン会議

(曹洞宗・浄土真宗の僧侶と共に)



熊本震災と東日本大震災

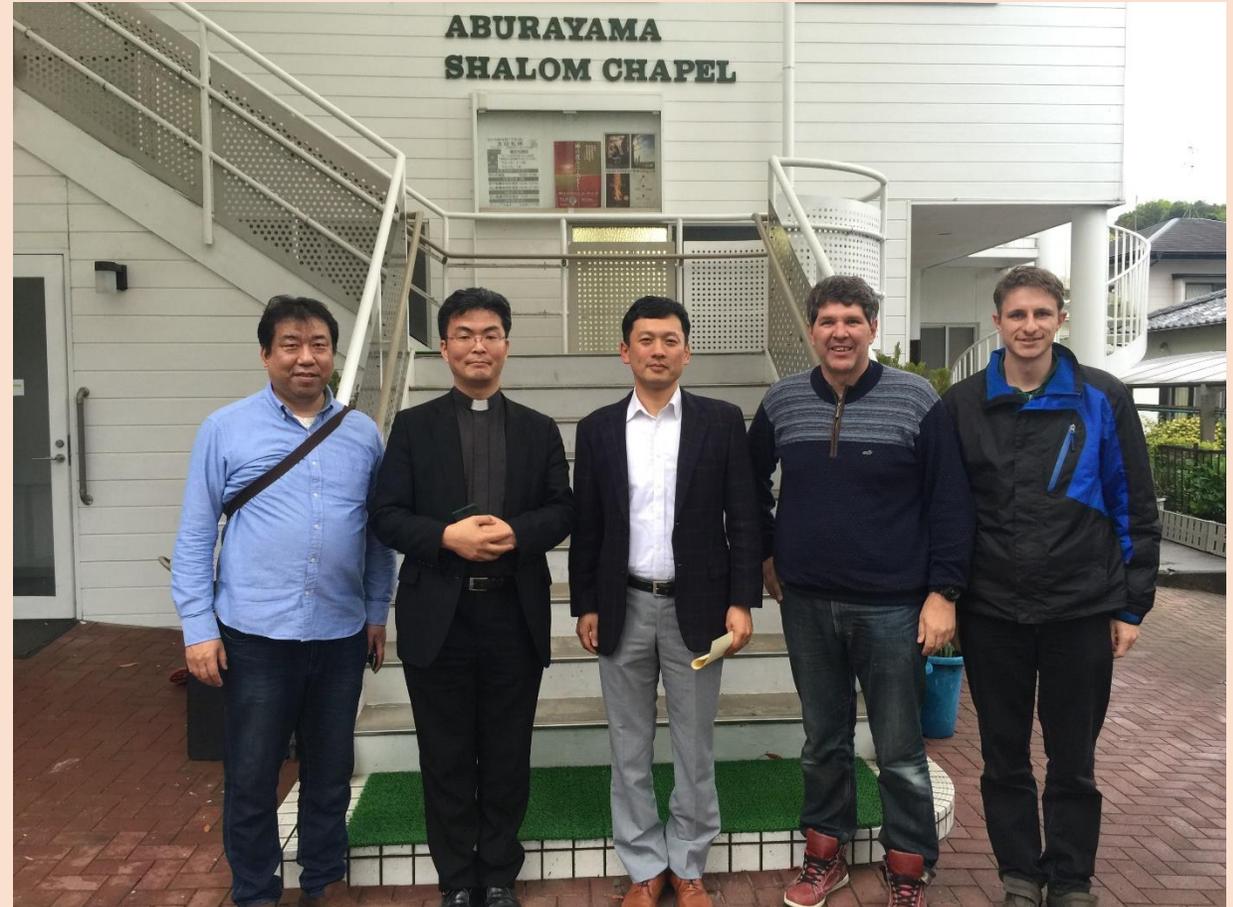
2016年4月21日(木)

ルーテル大江教会でチャプレン会議

(曹洞宗・浄土真宗の僧侶と共に)

九州キリスト教災害支援センターで会議

(日本イエス・キリスト教団福岡教会
シャーロームチャペルにて)



3. キリスト教と平和

(1)「Just Peace?」: アジア・アフリカからの異議

別紙資料3 を参照ください。

・・・新教＋正教＝5億人の教会会議→長年の議論: 平和と正義の関係は？

(2)「シャローム」の原義

古代ユダヤの言葉: 債権者と負債者が、公証人の前で、和解を宣言される語

・・・キリスト教的平和＝愛と赦しの宣言

(3) 熊本震災と津波被災地の現場で: キリスト教的支援者の職能

3. キリスト教と平和

(1)「Just Peace?」: アジア・アフリカからの異議

別紙資料3 を参照ください。

・・・新教＋正教＝5億人の教会会議→長年の議論: 平和と正義の関係は？

(2)「シャローム」の原義

古代ユダヤの言葉: 債権者と負債者が、公証人の前で、和解を宣言される語

・・・キリスト教的平和＝愛と赦しの宣言

(3) 熊本震災と津波被災地の現場で: キリスト教的支援者の職能

・・・不条理の現場で

3. キリスト教と平和

(1)「Just Peace?」: アジア・アフリカからの異議

別紙資料3 を参照ください。

・・・新教＋正教＝5億人の教会会議→長年の議論: 平和と正義の関係は？

(2)「シャローム」の原義

古代ユダヤの言葉: 債権者と負債者が、公証人の前で、和解を宣言される語

・・・キリスト教的平和＝愛と赦しの宣言

(3) 熊本震災と津波被災地の現場で: キリスト教的支援者の職能

・・・不条理の現場で「キリスト教的平和＝愛と赦しの宣言」の力を提示する

3. キリスト教と平和

(1)「Just Peace?」: アジア・アフリカからの異議

別紙資料3 を参照ください。

・・・新教＋正教＝5億人の教会会議→長年の議論：平和と正義の関係は？

(2)「シャローム」の原義

古代ユダヤの言葉：債権者と負債者が、公証人の前で、和解を宣言される語

・・・キリスト教的平和＝愛と赦しの宣言

(3)熊本震災と津波被災地の現場で：キリスト教的支援者の職能

3. キリスト教と平和

(1)「Just Peace?」: アジア・アフリカからの異議

別紙資料3 を参照ください。

・・・新教＋正教＝5億人の教会会議→長年の議論: 平和と正義の関係は？

(2)「シャローム」の原義

古代ユダヤの言葉: 債権者と負債者が、公証人の前で、和解を宣言される語

・・・キリスト教的平和＝愛と赦しの宣言

(3) 熊本震災と津波被災地の現場で: キリスト教的支援者の職能

＝破壊された人生と世界との和解を宣言する平和（シャローム）を体現する。

私たちにとって平和とは何か

—キリスト教社会福祉の使命—

1. 自己紹介
2. 社会福祉の使命
3. キリスト教と平和

私たちにとって平和とは何か

—キリスト教社会福祉の使命—

1. 自己紹介
2. 社会福祉の使命
3. キリスト教と平和
4. 原子力災害の現場で

4. 原子力災害の現場で

(1) 2015年5月9日・10日付「福島民報」

(2) 母親たちの涙：原子力災害の現状

(3) 責任看守(アンガージュマン)する職能者のネットワークを

原子力災害被災地： 2016年5月9日と10日の福島県

福島民報
2016(平成28)年
5月10日
火曜日
発行所
福島民報社
福島市本町13-17
電話0241-412-1111
0241-412-1112
0241-412-1113
0241-412-1114
0241-412-1115
0241-412-1116
0241-412-1117
0241-412-1118
0241-412-1119
0241-412-1120
0241-412-1121
0241-412-1122
0241-412-1123
0241-412-1124
0241-412-1125
0241-412-1126
0241-412-1127
0241-412-1128
0241-412-1129
0241-412-1130
0241-412-1131
0241-412-1132
0241-412-1133
0241-412-1134
0241-412-1135
0241-412-1136
0241-412-1137
0241-412-1138
0241-412-1139
0241-412-1140
0241-412-1141
0241-412-1142
0241-412-1143
0241-412-1144
0241-412-1145
0241-412-1146
0241-412-1147
0241-412-1148
0241-412-1149
0241-412-1150
0241-412-1151
0241-412-1152
0241-412-1153
0241-412-1154
0241-412-1155
0241-412-1156
0241-412-1157
0241-412-1158
0241-412-1159
0241-412-1160
0241-412-1161
0241-412-1162
0241-412-1163
0241-412-1164
0241-412-1165
0241-412-1166
0241-412-1167
0241-412-1168
0241-412-1169
0241-412-1170
0241-412-1171
0241-412-1172
0241-412-1173
0241-412-1174
0241-412-1175
0241-412-1176
0241-412-1177
0241-412-1178
0241-412-1179
0241-412-1180
0241-412-1181
0241-412-1182
0241-412-1183
0241-412-1184
0241-412-1185
0241-412-1186
0241-412-1187
0241-412-1188
0241-412-1189
0241-412-1190
0241-412-1191
0241-412-1192
0241-412-1193
0241-412-1194
0241-412-1195
0241-412-1196
0241-412-1197
0241-412-1198
0241-412-1199
0241-412-1200

国保減額分 県補填へ

自主財源で2億円規模

子ども医療費無料化

県内の入校生の医療費の無料化に伴い、福島県市町村への国保減額分(国保費への補助金)をめぐり、県と市町村が協議を進めている。県は、国保減額分を自主財源で補填する方針を示している。市町村は、国保減額分を県に請求する方針を示している。

子ども医療費無料化

18歳以下の子どもが医療機関を受診した場合、医療費が無料になる。これは、国の施策である。県は、この施策を実施するために、国保減額分を自主財源で補填する方針を示している。

県と市町村 減額撤廃求める

県内の国保財政に、国保減額分が影響を及ぼしている。市町村は、国保減額分を撤廃することを求めている。県は、国保減額分を自主財源で補填する方針を示している。

五輪強化へ「Jクラス」選手

21歳以上30人指定

県と県体協が、五輪強化のために「Jクラス」選手を指定する。指定は、21歳以上30人。県は、指定選手に、県費を補助する方針を示している。

県と県体協

県と県体協が、五輪強化のために「Jクラス」選手を指定する。指定は、21歳以上30人。県は、指定選手に、県費を補助する方針を示している。

名倉山

名倉山の風景を、写真で紹介する。名倉山は、福島県の名勝である。名倉山の風景は、美しい。名倉山の風景を、写真で紹介する。

福島民報社
福島市本町13-17
電話0241-412-1111
0241-412-1112
0241-412-1113
0241-412-1114
0241-412-1115
0241-412-1116
0241-412-1117
0241-412-1118
0241-412-1119
0241-412-1120
0241-412-1121
0241-412-1122
0241-412-1123
0241-412-1124
0241-412-1125
0241-412-1126
0241-412-1127
0241-412-1128
0241-412-1129
0241-412-1130
0241-412-1131
0241-412-1132
0241-412-1133
0241-412-1134
0241-412-1135
0241-412-1136
0241-412-1137
0241-412-1138
0241-412-1139
0241-412-1140
0241-412-1141
0241-412-1142
0241-412-1143
0241-412-1144
0241-412-1145
0241-412-1146
0241-412-1147
0241-412-1148
0241-412-1149
0241-412-1150
0241-412-1151
0241-412-1152
0241-412-1153
0241-412-1154
0241-412-1155
0241-412-1156
0241-412-1157
0241-412-1158
0241-412-1159
0241-412-1160
0241-412-1161
0241-412-1162
0241-412-1163
0241-412-1164
0241-412-1165
0241-412-1166
0241-412-1167
0241-412-1168
0241-412-1169
0241-412-1170
0241-412-1171
0241-412-1172
0241-412-1173
0241-412-1174
0241-412-1175
0241-412-1176
0241-412-1177
0241-412-1178
0241-412-1179
0241-412-1180
0241-412-1181
0241-412-1182
0241-412-1183
0241-412-1184
0241-412-1185
0241-412-1186
0241-412-1187
0241-412-1188
0241-412-1189
0241-412-1190
0241-412-1191
0241-412-1192
0241-412-1193
0241-412-1194
0241-412-1195
0241-412-1196
0241-412-1197
0241-412-1198
0241-412-1199
0241-412-1200

原子力災害被災地:

2016年5月9日と10日の福島県

医療費が増える
一方、人口減少
により税収が落ち込み...



原子力災害被災地：2016年5月9日と10日の福島県

福島民報 2016年(平成28年)5月9日(月曜日) (2)

甲狀腺がん関連認めず

放射線の健康影響 研究成果を報告

「子どもと国際シンポジウム」をテーマに、放射線の健康影響に関する研究成果を報告する。東京電力福島第二原発事故と甲狀腺がんの関係について、国際シンポジウム「子どもと国際シンポジウム」をテーマに、放射線の健康影響に関する研究成果を報告する。東京電力福島第二原発事故と甲狀腺がんの関係について、国際シンポジウム「子どもと国際シンポジウム」をテーマに、放射線の健康影響に関する研究成果を報告する。

放射線の健康影響を報告するトーマス教授

「新生児影響なし」

南相馬市立総合病院 クレア研究員

南相馬市立総合病院のクレア研究員は、震災後の新生児の健康状態について、震災前の平均と比較して、出生前からの放射線の影響は認められなかったと報告した。

新生児の体重や母体健康に問題はない

地産地消 地再

復興の足場を固める

震災後の復興を促すため、地産地消の推進が重要とされている。福島県では、震災後の復興を促すため、地産地消の推進が重要とされている。

野良 避難リスク示す

野良 避難リスク示す

震災後の避難生活を送る被災者の中には、野良のリスクを示す必要があるとされている。

川内の避難指示 解除時期「変更必要ない」

住民懇談会 政府が方針伝える

川内原発の避難指示解除時期について、住民懇談会では「変更必要ない」という方針を示している。

震災直後の対応振り返る

南相馬市長らパネリスト

震災直後の対応を振り返るパネリストとして、南相馬市長らが参加した。

原子力災害被災地:

2016年5月9日と10日の福島県

医療費が増える
一方、人口減少
により税収が落ち込み...



原子力災害被災地：2016年5月9日と10日の福島県

福島民報 2016年5月10日 火曜日

国保減額分 県補填へ

自主財源で2億円規模

福島県は10日、県民健康増進課で、国保減額分の補填について、県民健康増進課長が説明した。県民健康増進課は、国保減額分の補填について、県民健康増進課長が説明した。県民健康増進課は、国保減額分の補填について、県民健康増進課長が説明した。

子ども医療費無料化

福島県は10日、県民健康増進課で、子ども医療費無料化について、県民健康増進課長が説明した。県民健康増進課は、子ども医療費無料化について、県民健康増進課長が説明した。

県と市町村 減額撤廃求める

福島県は10日、県民健康増進課で、県と市町村の減額撤廃を求めることについて、県民健康増進課長が説明した。県民健康増進課は、県と市町村の減額撤廃を求めることについて、県民健康増進課長が説明した。

五輪強化へ「Jクラス」選手 21歳以上30人指定

福島県は10日、県民健康増進課で、五輪強化へ「Jクラス」選手21歳以上30人指定について、県民健康増進課長が説明した。県民健康増進課は、五輪強化へ「Jクラス」選手21歳以上30人指定について、県民健康増進課長が説明した。

福島民報 2016年(平成28年)5月9日(月曜日) (2)

甲状腺がん関連認めず

放射線の健康影響 研究成果を報告

福島県は10日、県民健康増進課で、甲状腺がん関連認めず、放射線の健康影響 研究成果を報告について、県民健康増進課長が説明した。県民健康増進課は、甲状腺がん関連認めず、放射線の健康影響 研究成果を報告について、県民健康増進課長が説明した。

「新生児影響なし」

南相馬市立総合病院 クレア研究員

南相馬市立総合病院のクリア研究員は、新生児影響なしについて、県民健康増進課長が説明した。南相馬市立総合病院のクリア研究員は、新生児影響なしについて、県民健康増進課長が説明した。

地産地消推進

福島県は10日、県民健康増進課で、地産地消推進について、県民健康増進課長が説明した。県民健康増進課は、地産地消推進について、県民健康増進課長が説明した。

川内の避難指示 解除時期「変更必要ない」

福島県は10日、県民健康増進課で、川内の避難指示 解除時期「変更必要ない」について、県民健康増進課長が説明した。県民健康増進課は、川内の避難指示 解除時期「変更必要ない」について、県民健康増進課長が説明した。

震災直後の対応振り返る

福島県は10日、県民健康増進課で、震災直後の対応振り返るについて、県民健康増進課長が説明した。県民健康増進課は、震災直後の対応振り返るについて、県民健康増進課長が説明した。

原子力災害被災地：2016年5月9日と10日の福島県

福島県民報 2016年5月10日 火曜日

国保減額分 県補填へ

自主財源で2億円規模

【福島県いわき市】福島県は10日、県民健康増進課で、国保減額分の補填について、県民健康増進課長が説明した。県民健康増進課は、国保減額分の補填について、県民健康増進課長が説明した。県民健康増進課は、国保減額分の補填について、県民健康増進課長が説明した。

子ども医療費無料化

自主財源で2億円規模

【福島県いわき市】福島県は10日、県民健康増進課で、子ども医療費無料化について、県民健康増進課長が説明した。県民健康増進課は、子ども医療費無料化について、県民健康増進課長が説明した。

県と市町村 減額撤廃求める

自主財源で2億円規模

【福島県いわき市】福島県は10日、県民健康増進課で、県と市町村の減額撤廃について、県民健康増進課長が説明した。県民健康増進課は、県と市町村の減額撤廃について、県民健康増進課長が説明した。

科学の力で、何とかしよう」とする、ドタバタ

放射線が健康に影響 研究結果を報告

【福島県いわき市】福島県は10日、県民健康増進課で、放射線が健康に影響を及ぼすかどうかについて、県民健康増進課長が説明した。県民健康増進課は、放射線が健康に影響を及ぼすかどうかについて、県民健康増進課長が説明した。

甲状腺がん関連認めず

放射線の健康影響 研究成果を報告

【福島県いわき市】福島県は10日、県民健康増進課で、甲状腺がんの発生と放射線の健康影響について、県民健康増進課長が説明した。県民健康増進課は、甲状腺がんの発生と放射線の健康影響について、県民健康増進課長が説明した。

リサイクル推進

地産地消推進 地産地消推進

【福島県いわき市】福島県は10日、県民健康増進課で、リサイクル推進について、県民健康増進課長が説明した。県民健康増進課は、リサイクル推進について、県民健康増進課長が説明した。

地産地消推進

地産地消推進 地産地消推進

【福島県いわき市】福島県は10日、県民健康増進課で、地産地消推進について、県民健康増進課長が説明した。県民健康増進課は、地産地消推進について、県民健康増進課長が説明した。

「新生児影響なし」

南相馬市立総合病院 クレア研究員

【福島県いわき市】南相馬市立総合病院のクリア研究員は、新生児の健康に影響がないことを報告した。クリア研究員は、新生児の健康に影響がないことを報告した。

解除時期「変更必要ない」

住民懇談会 政府が方針伝える

【福島県いわき市】住民懇談会では、解除時期の変更が必要ないことを政府が方針を伝える。住民懇談会では、解除時期の変更が必要ないことを政府が方針を伝える。

震災直後の対応振り返る

南相馬市長らパネリスト

【福島県いわき市】南相馬市長らパネリストは、震災直後の対応を振り返る。南相馬市長らパネリストは、震災直後の対応を振り返る。

野野呂 個人線量を調査

野野呂 個人線量を調査

【福島県いわき市】野野呂は、個人線量を調査する。野野呂は、個人線量を調査する。

川内の避難指示

解除時期「変更必要ない」

【福島県いわき市】川内の避難指示解除時期について、政府が方針を伝える。川内の避難指示解除時期について、政府が方針を伝える。

原子力災害被災地：2016年5月9日と10日の福島県

福島民報 2016年5月10日 火曜日

国保減額分 県補填へ

自主財源で2億円規模

福島県は、国保減額分の補填に、自主財源で約2億円を捻出する方針を明らかにした。県民の負担軽減を図るとともに、財政の健全化を図る。県は、国保減額分の補填に、自主財源で約2億円を捻出する方針を明らかにした。県民の負担軽減を図るとともに、財政の健全化を図る。

子ども医療費無料化

福島県は、子ども医療費の無料化を推進する。県民の負担軽減を図るとともに、財政の健全化を図る。

県と市町村 減額撤廃求める

福島県は、市町村の減額撤廃を求める。県民の負担軽減を図るとともに、財政の健全化を図る。

科学の力で、何とかしよう」とする、ドタバタ 科学の力を活かす人間の力が欠けている

地産地消推進

地産地消が唱えられて三十年となる。今までは、全国各地に波及し、定着した。半面、似たような取り組みが多くなり、効果的な取り組みは限られている。福島県は、地産地消を推進し、地域の活性化を図る。

地産地消消地再

福島県は、地産地消を推進し、地域の活性化を図る。地産地消消地再を推進し、地域の活性化を図る。

甲状腺がん関連認めず

放射線の健康影響に関する研究結果を報告。甲状腺がんの発生率が増加しているが、放射線との関連は認められていない。

新生児影響なし

南相馬市立総合病院の新生児の健康状態について、放射線の影響は認められていない。

甲状腺がん関連認めず

放射線の健康影響 研究成果を報告

福島県立医科大学の研究者が、放射線の健康影響に関する研究成果を報告した。甲状腺がんの発生率が増加しているが、放射線との関連は認められていない。

新生児影響なし

南相馬市立総合病院 クレア研究員

南相馬市立総合病院の新生児の健康状態について、放射線の影響は認められていない。

解除時期「変更必要ない」

住民懇談会 政府が方針伝える

政府は、解除時期の変更は必要ないと判断した。住民懇談会では、政府の方針を伝える。

震災直後の対応振り返る

南相馬市長らパネリスト

震災直後の対応を振り返る。南相馬市長らパネリストが、震災直後の対応を振り返る。



原子力災害被災地：2016年5月9日と10日の福島県

福島県民報 2016年5月10日 火曜日

国保減額分 県補填へ

自主財源で2億円規模

福島県は、国保減額分の補填に、自主財源で約2億円を捻出する方針を明らかにした。県民の負担を軽減し、財政の健全化を図る。県は、国保減額分を補填するために、県民の負担を軽減し、財政の健全化を図る。県民の負担を軽減し、財政の健全化を図る。

子ども医療費無料化

福島県は、18歳以下の子どもたちの医療費無償化に、国保減額分を補填する方針を明らかにした。県民の負担を軽減し、財政の健全化を図る。県民の負担を軽減し、財政の健全化を図る。

県と市町村 減額撤廃求める

福島県は、国保減額分の撤廃を市町村に求める方針を明らかにした。県民の負担を軽減し、財政の健全化を図る。県民の負担を軽減し、財政の健全化を図る。

科学の力で、何とかしよう」とする、ドタバタ
 科学の力を活かす人間の力が欠けている
 人間の力は、平安によってのみ、支えられる

リサイクル推進

地産地消が唱えられて三十年となる。今は、全国各地で定着している。半面、似たような取り組みが多くなれば、将来的に効果も持続性も乏しくなる。福島県は、東日本大震災を経験した本県とは、震災に向けた新たな取り組みとして、地産地消の推進を推進している。

地産地消十地再

福島県は、地産地消の推進を推進している。地産地消の推進を推進している。地産地消の推進を推進している。地産地消の推進を推進している。地産地消の推進を推進している。

甲状腺がん関連認めず

放射線の健康影響 研究成果を報告
 福島県は、甲状腺がんの発生率が増加している。放射線の健康影響を調査している。放射線の健康影響を調査している。放射線の健康影響を調査している。

震災直後の対応振り返る

南相馬市長らパネリスト
 震災直後の対応を振り返る。南相馬市長らパネリストが、震災直後の対応を振り返る。南相馬市長らパネリストが、震災直後の対応を振り返る。

子どもと震災シンポ最終日

福島県は、子どもと震災シンポの最終日を迎えている。シンポの最終日を迎えている。シンポの最終日を迎えている。シンポの最終日を迎えている。

新生児影響なし

南相馬市立総合病院 クレア研究員
 南相馬市立総合病院のクリア研究員は、新生児に影響はないと報告している。南相馬市立総合病院のクリア研究員は、新生児に影響はないと報告している。

解除時期「変更必要ない」

住民懇談会 政府が方針伝える
 住民懇談会では、解除時期の変更は必要ないとされている。住民懇談会では、解除時期の変更は必要ないとされている。

野野呂 個人線量を調査

野野呂 個人線量を調査
 野野呂の個人線量を調査している。野野呂の個人線量を調査している。野野呂の個人線量を調査している。



4. 原子力災害の現場で

(1) 2015年5月9日・10日付「福島民報」

(2) 母親たちの涙：原子力災害の現状

(3) 責任看守(アンガージュマン)する職能者のネットワークを

4. 原子力災害の現場で

(1) 2015年5月9日・10日付「福島民報」

原子力災害の現場には、シャロームが必要である。

(2) 母親たちの涙：原子力災害の現状

(3) 責任看守(アンガージュマン)する職能者のネットワークを

4. 原子力災害の現場で

(1) 2015年5月9日・10日付「福島民報」

原子力災害の現場には、シャロームが必要である。

(2) 母親たちの涙：原子力災害の現状

(3) 責任看守(アンガージュマン)する職能者のネットワークを

4. 原子力災害の現場で

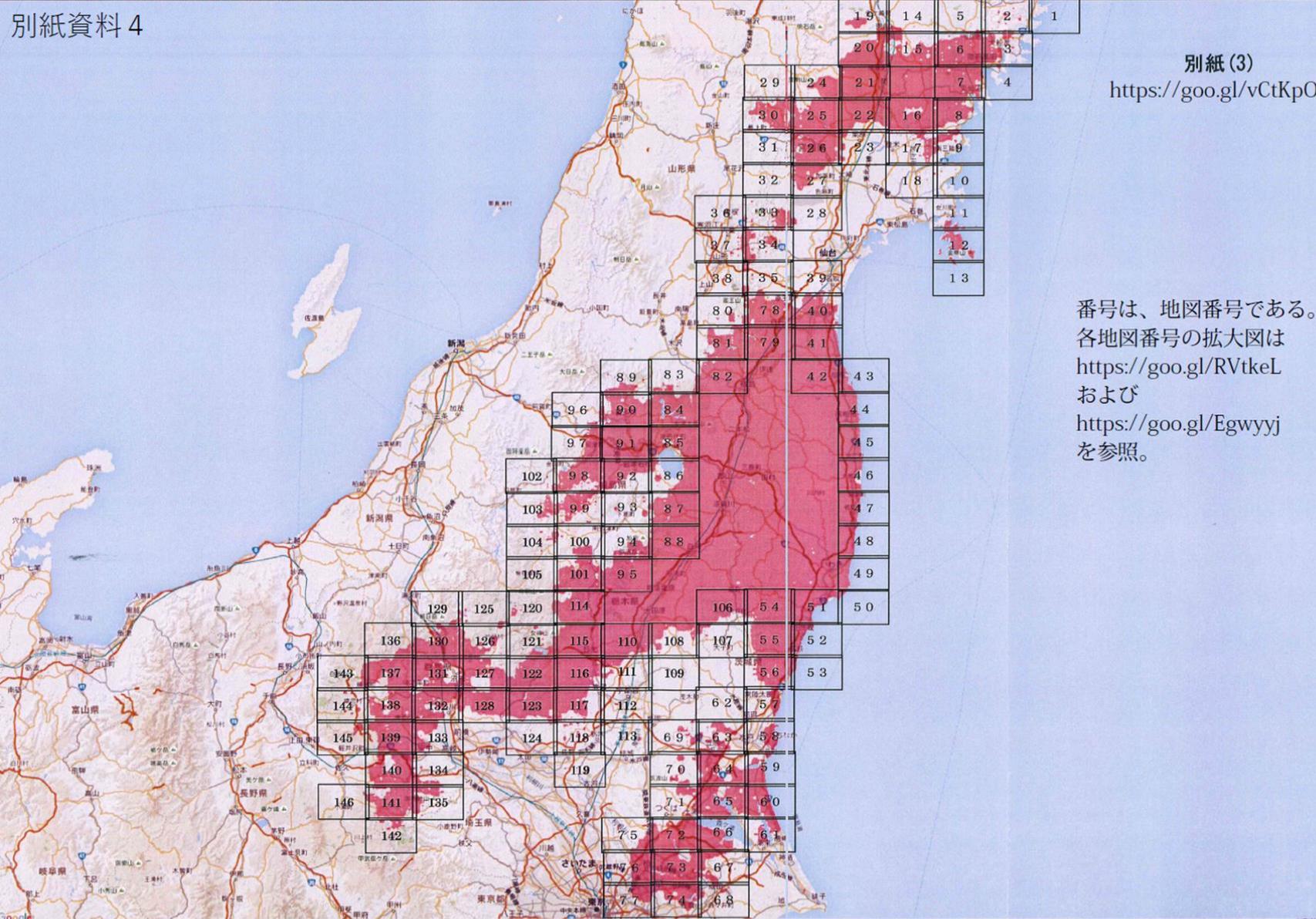
(1) 2015年5月9日・10日付「福島民報」

原子力災害の現場には、シャロームが必要である。

(2) 母親たちの涙：原子力災害の現状

→別紙資料4・5・6 を参照ください

(3) 責任看守(アンガージュマン)する職能者のネットワークを



別紙(3)
<https://goo.gl/vCtKpO>

番号は、地図番号である。
 各地図番号の拡大図は
<https://goo.gl/RVtkeL>
 および
<https://goo.gl/Egwyj>
 を参照。

」について

(説明書)

NPO 法人 被災支援ネットワーク・東北ヘルプ
 事務局長 川上直哉 (牧師・神学博士)

以上を整理していえば、次の通りとなる。この地図は、

- 1) 日本国政府が2012年末まで調査したデータを
- 2) 原子力災害被害当事者で政府を告訴している人々が整理して編集し
- 3) 裁判所が2016年2月末に証拠採用した公的な資料
 =政治から解放された、初の「放射能ハザードマップ」である。

このハザードマップには、
 12年末時点での「安全とは言えない」地域が赤く塗られている。
 つまり、
 「危険」とも「安全」とも言えない、という
 「自己責任で調べるべき地域」が示されている。

(丁)

1 「訴えの追加変更申立書2」のすべては、<http://fukushima-sokaisaiban.blogspot.jp/2016/02/blog-post.html> に公開されている。

2 文部科学省 「第6次航空機モニタリングの測定結果」(平成24年10月31日～12月28日の調査)

http://radioactivity.nsr.go.jp/ja/contents/7000/6749/24/191_258_0301_18.pdf

3 管見の及ぶ限り、こうした資料において「公的な」権威をもつものは、これが初めてである。極めて重要な資料と判断されるゆえんである。



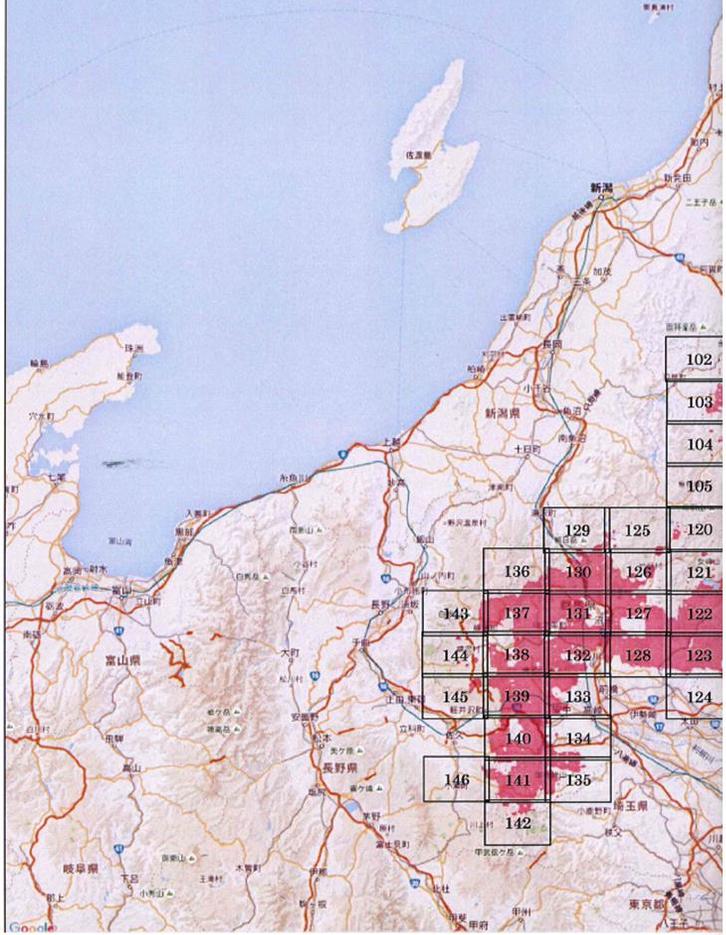
別紙(3)
<https://goo.gl/vCtKpO>

別紙資料 4

地図資料「別紙(3)」について

(原子力災害ハザードマップ説明書)

NPO 法人 被災支援ネットワーク・東北ヘルプ
 事務局長 川上直哉 (牧師・神学博士)



1. この資料は、「子ども脱被ばく裁判」(原告ら訴訟代理人: 弁護士 井戸謙一 他 18 名、被告: 福島市・川俣町・伊達市・田村市・郡山市・いわき市・福島県・日本国、平成 26 年 8 月 29 日提訴) の平成 28 年 2 月 25 日第 4 回口頭弁論において証拠採用された「訴えの追加変更申立書 2」の「別紙(3)」である。¹

2. この資料は、「原子炉等規制法 6 1 条の 2 第 1 項、第 3 項」に従い環境省が定める「クリアランスレベル」(甲 A 第 4 9 号証) を超える土壤汚染地域の広がり、文科省が 2012 年末までに行った調査² から、図示したものである。

3. 従ってこの地図は「放射線による障害の防止のための措置を必要としない」(原子炉等規制法 6 1 条の 2 第 1 項、第 3 項) レベルを超えた地域が 2012 年末時点でどう広がっているかを示す、公的な資料となる。³

4. 以上を整理していえば、次の通りとなる。この地図は、
 (1) 日本国政府が 2012 年末まで調査したデータを
 (2) 原子力災害被害当事者で政府を告訴している人々が整理して編集し
 (3) 裁判所が 2016 年 2 月末に証拠採用した公的な資料
 = 政治から解放された、初の「放射能ハザードマップ」である。

このハザードマップには、
 2012 年末時点での「安全とは言えない」地域が赤く塗られている。
 つまり、
 「危険」とも「安全」とも言えない、という
 「自己責任で調べるべき地域」が示されている。
 (了)

¹ 「訴えの追加変更申立書 2」のすべては、<http://fukusima-sokaisaiban.blogspot.jp/2016/02/blog-post.html> に公開されている。

² 文部科学省 「第 6 次航空機モニタリングの測定結果」(平成 24 年 10 月 31 日～12 月 28 日の調査)

http://radioactivity.nsr.go.jp/ja/contents/7000/6749/24/191_258_0301_18.pdf

³ 管見の及ぶ限り、こうした資料において「公的な」権威をもつものは、これが初めてである。極めて重要な資料と判断されるゆえである。

東北ヘルプ「短期保養支援」の面談結果について

担当者：川上直哉
作成：2016年6月17日

東北ヘルプは、合同メソジスト教会災害対策室（UMCOR）の資金をお預かりして、2016年6月までのプロジェクトとして、「短期保養」を支援しています。それは、

- イ) 放射能に不安を覚えている親御さんを対象に
- ロ) 短期保養を行って子どもを守るために、
- ハ) 保養のための交通費を支援する。

・・・というものです。

この支援の大切なポイントは、支援の度に、毎回必ず、面談を行うことです。2016年6月17日現在、川上は720回の面談を行い、207世帯（大人441人、子ども434人）のお話を定期的にお伺いしてきました。回を重ねるうち、これは尋常ではないと、背筋を寒くする思いを強めました。その内容を数字で説明しますと、以下の通りとなります。

1. 浜通り（福島県太平洋岸地域）の72世帯との面談の結果

(1) 面談をした88%の世帯で、健康に異常が確認されていました。

(2) 大人152名の内、以下の症状が確認されていました。

甲状腺B判定(7人)、慢性的な鼻血(6人)、慢性的な空咳(6人)、甲状腺A2判定(5人)、慢性的な発熱(4人)、皮膚疾患(3人)、慢性的な咳痰(3人)、慢性的な鼻炎(3人)、声が出ない(2人)、橋本病(2人)、流産(2人)、溶連菌感染症(1人)、子宮外妊娠(1人)、甲状腺C判定(1人)、胃腸炎(1人)、慢性的な体の痛み(1人)、甲状腺肥大(1人)、甲状腺癌(1人)、視神経炎(1人)、慢性的な頭痛(4人)、糖尿病の悪化(1人)、白内障(1人)、こぶ(1人)、耳に膿がたまる(1人)、慢性的な不整脈(1人)

(3) 子ども150名の内、以下の症状が確認されていました。

慢性的な鼻血(43人)、甲状腺A2判定(37人)、空咳・喘息(28人)、皮膚疾患(26人)、体力の低下(15人)、慢性的な鼻炎(11人)、慢性的な発熱(7人)、慢性的な口内炎(7人)、慢性的な頭痛(7人)、甲状腺B判定(5人)、手足口病(5人)、肺炎(4人)、爪に異常(4人)、慢性的な蕁麻疹(3人)、慢性的な腹痛(3人)、慢性的な足の痛み(3人)、中耳炎(3人)、リンゴ病(2人)、産まれてすぐ鼻水が詰まる(2人)、夜尿症(2人)、首の痛み・しこり(2人)、慢性的な限(2人)、精巣の奇形(2人)、慢性的な足の裏のかゆみ(1人)、副鼻腔炎(1人)、足の奇形(1人)、慢性的な咳痰(1人)、慢性的な胃腸炎(1人)、慢性的な下痢(1人)、視力低下(1人)、赤血球不足(1人)、慢性的などの痛み(1人)、慢性的な徘徊(1人)、とびひ(3人)白血球(1人)、慢性的な貧血(1人)、慢性的な不整脈(1人)、マイコプラズマ(1人)、まぶしがる(1人)、目がかゆい(1人)、上あごに腫瘍(1人)、ものもらい(1人)

・ 中通（福島県福島市・郡山市を中心とした盆地帯）の93世帯との面談の結果

1) 面談をした85%の世帯で、健康に異常が確認されていました。

2) 大人201名の内、以下の症状が確認されていました。

性的な皮膚疾患(7人)、慢性的な頭痛(6人)、慢性的なだるさ(6人)、慢性的な空咳(4人)、甲状腺A2判定(3人)、甲状腺肥大(2人)、声が出ない(2人)、扁桃腺肥大(2人)、慢性的な鼻(2人)、慢性的な貧血(1人)、慢性的な腰痛(1人)、歩けなくなる(1人)、肺がん(1人)、風が治らない(1人)、慢性的な下痢(1人)、リウマチ(1人)、毛穴から出血(1人)、中耳炎(1)、副鼻腔炎(1人)、喘息(1人)、咳痰(3人)、呼吸器が苦しい(1人)、慢性的な発熱(1)、膀胱炎(1人)、足が勝手にバタバタ動く(1人)、睡眠障害(1人)、大腸腫瘍(1人)、肝臓痛(1人)、慢性的な不整脈(1人)、甲状腺腫瘍(1人)、手足の痺れ(1人)、持病の悪化(1)、橋本病(1人)、慢性的に喉がイガイガする(1人)、死産(1人)

3) 子ども177名の内、以下の症状が確認されていました。

性的な鼻血(39人)、甲状腺A2判定(31人)、慢性的な皮膚疾患(30人)、慢性的な頭痛(9)、空咳・喘息(9人)、慢性的な口内炎(8人)、慢性的な発熱(6人)、慢性的な鼻炎(12人)、性的な下痢(4人)、慢性的な蕁麻疹(3人)、慢性的な疲労感(3人)、慢性的な胃腸炎(3人)、性的な足の痛み(3人)、夜尿症(3人)、慢性的な限(3人)、扁桃腺肥大(3人)、歯ぐきから血が止まらない(2人)、慢性的な気管支炎(2人)、ひどい爪噛み(2人)、白血球内好中球数低下(2人)、胸が痛い(2人)、貧血(2人)、夜に眠れない(2人)、食欲減退(2人)、とびひ(2)、慢性的な血圧低下(1人)、結核の剥離(1人)、慢性的な体力の低下(1人)、低血糖で意識失う(1人)、肺炎(1人)、身長が伸びず体重が減る(1人)、幻覚を見る(1人)、マイコプラズ(1人)、慢性的な目の痛み(1人)、声が出にくい(1人)、寝つきが悪くなった(1人)、帯状疱疹(1人)、心臓に穴が開いて生まれる(1人)、軽度肥満(1人)、甲状腺機能低下症・橋本病(1)、甲状腺がん(1人)、甲状腺肥大(1人)、保養先で黒い便(1人)、パセドウ病(1人)、髪が生えてこない(1人)、急性ストレス障害(1人)、手の震え(1人)、風邪をひきやすい(1)、骨折(1人)、慢性便秘(1人)、血小板減少紫斑病(1人)、キッキング病(1人)、脇の下と腕内側が赤く腫れる(1人)、給食のキューイを嘔吐、顔が腫れあがってアレルギーに(1人)、ウイルス感染症(1人)、血行不良(1人)、慢性的に目がかゆい(1人)、慢性的に目が腫れる(1人)、甲状腺低下症(1人)、熱性痙攣(1人)、慢性的な咳痰(1人)



葉・埼玉・栃木）と宮城県内で「2011年3月」を過ごし

健康に異常が確認されていました。

状が確認されていました。

性的に心臓のところが痛い(2人)、慢性的な体の痛み(2)、口内炎(2人)、慢性的な限(2人)、耳管内炎症(2人)、甲(2人)、慢性的な吐き気(2人)、慢性的な目まい(2人)、慢性(2人)、抜け毛(1人)、慢性的な空咳(1人)、橋本病(1人)、血と前置胎盤(1人)、鼻と目のかゆみ(1人)、目が痛い(1)、ム(1人)、何度も卒倒した(1人)、パセドウ病(1人)、甲(1人)、甲状腺癌(1人)、婦人科の病気(大量出血)(1人)、作用で恒常的な病となる(1人)、溶連菌によるリウマチ痛の

症状が確認されていました。

鼻血(23人)、とびひ(3人)、皮膚疾患(18人)、口内炎(10(2人)、空咳・喘息(8人)、恒常的な頭痛(8人)、気管支炎(り)と疲れる(5人)、白血球内好中球数の低下(3人)、恒常的、尿からセシウム検出(3人)、体力の低下(1人)、甲状腺B(1人)、恒常的な足の痛み(1人)、身長が伸びず体重が減るのかゆみ(1人)、低体重(1人)、雪焼けのような日焼け(1後骨髄球検出(1人)、心臓に穴が開いて生まれる(2人)、(1人)、ヘルペス(1人)、口唇口蓋裂(1人)、慢性的な足の

一人の心痛を記録したメモ全てを見直しました。作業を続きました。何もできない、お見舞いと連帯の言葉をかけるばかりだった皆様と「ともだち」になってくださったこと。それだ



2016年2月19日 岡山県和気町 避難者・保養者交流会 記録

日時：2016年2月19日 午前10時～午後3時

会場：日本基督教団和気教会

記録：川上直哉

千葉県から保養中のAさん：

千葉県内の東葛地域で看護師をしていた。患者さんに起きている異変に気づき、就職後半年であったけれど、保養にきた。輸血が必要なほどの貧血があっても、病院では「原因不明」とされる。スタッフにも、目が赤い人が何人もいた。スタッフの知り合いの子どもの一人は、当時2歳ころだったけれど、けいれんを起こして、人工呼吸器を必要とした。別のスタッフ仲間は、震災後生まれた子どもがいたのだけれど、その子どもは肺炎を起こし、けいれんを起こし、経管栄養となっていた。20代後半の別のスタッフは、咳をしただけで肋骨を骨折した。そうしたことの積み重ねがあって、異常を感じ、怖くなった。しかし他のスタッフは、医者も含めて、おかしいと思わなかったようだ。患者にも話してみたが、耳を貸してくれる人はいなかった。主人も、汚染は認めるが、子どもへの影響については懐疑的だった。自分は大丈夫だと思うので、子どもたちは保養にもいかななくていい。でも、私は保養を強行した。義理の両親は、「カルトだ」とか、「東京ではヒバクなんて言わない」と言う。他の人も、福島には人が住んでいるんだから、関東だって大丈夫だと。マスコミは報道してくれない。調べない人は、洗脳されていると思う。そう言う、自分が洗脳されているといわれる。岡山で三田医院に行き検査してもらったところ、異形リンパ球が出、好中球が少なくなっていた。

東京都から母子避難中のBさん

東京から来た。3月12日に、後頭部とリンパ節が痛み始めた。ネットで情報を取り、3月18日までは外出を控えた。そのあと散歩に出ると、子どもが泣き始めた。空気がおかしいと思った。3月30日に新潟に避難した。自分の体重が5キロ減ったので、夫が送り出してくれた。新潟で右の奥歯が膿んで、骨が変形していたので、抜歯した。しばらくのち、帰宅して、東京で普通に過ごしていたのだけれど、娘が手足口病となり、肛門まで湿疹が出た。病院では、「こうした症状は初めてだけれど、今年はこうしたことが多い」と言われた。

2011年5月に土を調べた。北区で、500ベクレルあった。そのあともネットを調べていたら怖くなってきた。それでも、母子で避難することは難しかった。山形の理研で尿を調べると「0.18ベクレル/2kg」だった。30日で体内のセシウムを輩出できると野呂さん（チェルノブイリ被災者支援団体責任者）に聞き、水が汚染されていることを思って、2月からウィークリーマンションで岡山に避難した。東京に戻ることが怖くなっていった。夫とは話が合わなくなる。長野の松本へ逃げたが、野原で巨大なタンポポを見つけ、2013年から岡山県和気町に母子避難して現在に至る。

東京都から母子避難中のCさん

当時息子は3歳だった。津波の映像を見せたくなくてテレビを見せず、パソコンも具合が悪くて見られなかった。ケータイには「パニック」を防ごうというメールが流れてきた。その時は23区内にいた。地震が怖いということで、みんなで公園に集まった。23区で水がだめになった3月21日、お茶をもって公園に遊び、久しぶりにテレビを見てから、1歳の子どもに水を飲ませないで下さいとテレビで言っていた。目の前が真っ暗になった。備蓄もなく、その水を使うしかなかったのだ。今でも、あの水を使ったことを後悔し申し訳なく思っている。次の日の開店前にスーパーに行った。長蛇の列だった。一人一本しか、水が買えなかった。

抱えている人もいた。申し訳ないと思った。あの時、心を鬼にして、子どもと一緒にだと主張して「よかったと、今でも後悔している。

避難しようとしたが、周囲から大反対された。親戚の叔父からも叱責された。そこで挫けた。雪が怖くなった。次の年、夫の実家のある愛知へ移住しようと思った。しかし、義母に反対される人はどうなるのか」というのが反対理由だった。そうして名古屋もあきらめた。結局、暖かくなると0日間の北海道への保養に出ただけだった。そのころ、がんだった父が急に数値が悪化した。それを受けなければならなくなった。息子を幼稚園に入れる年だった。父は夏に亡くなった。その夏、アハウスへ行こうと思っていたけれど、葬儀でキャンセルした。結局保養にも行けず、動けなかつた。ローゼになりそうになった。食べ物を選ぶのに大変な努力を続けた。息子の幼稚園には放射能がある親がいて、協力し合えた。精神的におかしくなってきた。徳島に母子で移住している人がたつことを知り、2013年1月に徳島へ二週間行く。検査で数値に出さないと男は納得しない、と言われて、甲状腺の専門病院で有名な伊藤病院へ行った。すると、問診もしないうちに、数値が高くて「な」と言われた。「だいじょうぶ」と前置きしてから、検査をした。子どもの数値は、小児科でわからない、と言われたのに、甲状腺機能低下症といわれた。投薬治療をするという。それで三田へ行った。それで、検査結果を診てもらった。子どもについては、投薬治療は要らないという診断だった。気にしなければいけないことがあるといわれ、それは、白血球と好中球の数値の悪さだった。自分の数値が悪かった。それで西への移住を勧められた。

故郷の年と違って、「もう気にしなくていいじゃない、今更」と言ってきた。でも、息子の幼稚園で、お友達と遊んだ子どもは、入院回数が増え、冬に手足口病が出て、紫斑病も流行っていた。東京の小学校に行かせられないと思って、岡山の移住相談会へ行った。お試し住宅へ応募した。それでも落選すると思って、和気の「安らぎの泉」に来た。東京都水道局では870ベクレルの汚染が表示され、問が安心して住める場所ではないと聞いた。世田谷の息子が行くはずだった小学校では3か所除染した。子どもを守る会をお母さんたちが動いた結果だった。

3月に、母子で移住した。今、76歳の母が、だるくて起きられなくなった。死にたくなるほどつらい。湿疹がひどくなっている。友人の母親もそうだという。川崎にいる叔父は、丹毒になった。大げなたびに、母の世話をしに、東京に帰っている。みんなで移住できたら気楽なのに。夫は、東京に帰ってこい。震災後、自分の白内障が一気に進んだ。病院では、「あの程度ではありえない」と言われ、放射能にやられた症状は知らないはずなのに。

東京都から母子避難中のDさん

3区内で、3歳、6歳の息子二人と被災した。下の子が地震を怖がっていた。15日に三号機が爆発を見て、新幹線で大阪に逃げた。不思議なくらい駅が静かだった。赤十字の人、外国人、子連れの人さんだった。大阪に3月いっぱいいた。ドイツに10年留学した経験を持った人が息子の幼稚園の先生だったので、家族を守ることが園の方針となった。日用品を大阪から東京へ送り続けた。お風呂再開に合わせて東京に戻った。砂場の砂は全部入れ替えていた。麦茶は全部ペットボトルとした。お風呂で使ってくれた。雨からも守ってくれた。その幼稚園にいる間は大丈夫だろうと思った。

9月、便秘症だった下の子が意識不明になった。低血糖だといわれ、血糖値39だった。点滴ですぐ回復した。その半年後、また倒れた。二回もあることは異常だから、と、検査をした。甲状腺機能低下症だと言われ、始めると、一生ホルモン剤が必要になると言われた。生後すぐにあらゆる検査をしていたので、異常ではなかったと証明できる。ともかく、どこに行こうかと非難場所を探すことになった。園長さんからもらえる幼稚園を卒園となり、小学校では牛乳については福島のものを使うことになったと通知された。休み、徳島で保養をして帰ると、長男は、三日連続で鼻血を出した。夜で、シーツいっぱい鼻血

）月には引越した。岡山の病院で検査を続けると、次男は、どんどん良

くなることもある。健康を理由とした退社は、震災以前は全国で「年間一度」となった。それを知った夫は、恐怖を覚えて、退社を決意した。

被災。上の子はいま、中学生で、がんセンターに行っている。震災前の夫、実家のある岡山で手術を受けた。そのあと、自分が住んでいる場所がそのまま、岡山に残った。「政府が丈夫だというのに、何を言っているんだ」と言われて、親戚に叱責され、福島にボランティアに行った親戚とは仲たがって、離婚の調停に入り、親権をめくり争いとなり、和気の教会施設に身を寄せた。下の子は幼稚園には行きたくないとなる。長男は柏に帰りたいと。お母さん捨てる気か」とやり返してしまい、「父さん、5年生の時に、長男はひとりで千葉県に帰っていった。

戻したら、自分が鬱で子どもは発達障害だと診断された。調停から裁判になり、お母さんお父さんおまわりのからもう来るな」と言われる。その後、起きられない状態になり、行政が言ってきた。ここ（和気教会）にいれば、仲間がいる。でも、ここへ移った。不登校児が多いので、施設などもあると聞いたので。下の子は、この震災は、私の心を押しつぶした。まだ幼い長男が「死んでもいい」といっている。日本の政府は大丈夫だという、それがつらくなったことに気付いた私たちは、これからどうしたらよいのだろうか。ここにいるけれど、今自分はひとりっきりで、育てている下の子どもも不安定な状態。読むことも苦手で、9歳になっている。一日中暗い部屋に閉じこもる。どうしたらよいのか。今、フリースペースという団体が訪問してくる。お母さんお父さんおまわりのからもう来るな」と言われる。しばらく暴言・暴行がひどかった。治まってきた感じがする。和気教会が孤立を防ぐ場となっている。

調査重点地域となっている地域で、議員をしていた。行政は事故対策をせよ。父兄が事故の後、学校の放射線量を計ってほしいなどと要請しても、おまわりのからもう来るな」と言われる。ただでよかった。そしてその情報は隠された。県産のハウレンソウやカキの農協の理事長は、それを配った。議会から働きかけても、動かず、隠された。焼却灰を測ると、8000Bqを超えていた。行政は対策をしているだけで情報公開もなかった。

か」とネット上に発言したら、「福島差別」と炎上し、議会の多数決で議決して岡山に避難してきた。鼻血を出していた。息子に、甲状腺の数値に異変がある。良い友達がいる、ということで、息子の手を放してしまったこと。病院に診察してもらっているが、好中球減少症の疑いがある。長男には、おまわりのからもう来るな」と言われる。進路を決める時期なので、こま

4. 原子力災害の現場で

(1) 2015年5月9日・10日付「福島民報」

原子力災害の現場には、シャロームが必要である。

(2) 母親たちの涙：原子力災害の現状

→別紙資料4・5・6 を参照ください

(3) 責任看守(アンガージュマン)する職能者のネットワークを

4. 原子力災害の現場で

(1) 2015年5月9日・10日付「福島民報」

原子力災害の現場には、シャロームが必要である。

(2) 母親たちの涙：原子力災害の現状

→別紙資料4・5・6 を参照ください(原子力災害の矮小化と複雑化)

(3) 責任看守(アンガージュマン)する職能者のネットワークを

4. 原子力災害の現場で

(1) 2015年5月9日・10日付「福島民報」

原子力災害の現場には、シャロームが必要である。

(2) 母親たちの涙：原子力災害の現状

→別紙資料4・5・6 を参照ください(原子力災害の矮小化と複雑化)

(3) 責任看守(アンガージュマン)する職能者のネットワークを

4. 原子力災害の現場で

(1) 2015年5月9日・10日付「福島民報」

原子力災害の現場には、シャロームが必要である。

(2) 母親たちの涙：原子力災害の現状

→別紙資料4・5・6 を参照ください(原子力災害の矮小化と複雑化)

(3) 責任看守(アンガージュマン)する職能者のネットワークを

社会福祉の定義：この社会で「出会った人だけでも、支えよう」

4. 原子力災害の現場で

(1) 2015年5月9日・10日付「福島民報」

原子力災害の現場には、シャロームが必要である。

(2) 母親たちの涙：原子力災害の現状

→別紙資料4・5・6 を参照ください(原子力災害の矮小化と複雑化)

(3) 責任看守(アンガージュマン)する職能者のネットワークを

社会福祉の定義：この社会で「出会った人だけでも、支えよう」

→介護、精神保健、医療、宗教、法曹・・・のネットワークを

4. 原子力災害の現場で

(1) 2015年5月9日・10日付「福島民報」

原子力災害の現場には、シャロームが必要である。

(2) 母親たちの涙：原子力災害の現状

→別紙資料4・5・6 を参照ください(原子力災害の矮小化と複雑化)

(3) 責任看守(アンガージュマン)する職能者のネットワークを

社会福祉の定義：この社会で「出会った人だけでも、支えよう」

→介護、精神保健、医療、宗教、法曹・・・のネットワークを

→キリスト者のシャロームには、つなぎ目となる可能性がある。

責任看守(アンガージュマン)する職能者のネットワークを

社会福祉の定義:この社会で「出会った人だけでも、支えよう」

→介護、精神保健、医療、宗教、法曹・・・のネットワークを

→キリスト者のシャロームには、つなぎ目となる可能性がある。